

問題1

今回の検定テーマは「家康公の生涯と江戸打入り」です。家康公が生涯の大部分を過ごしたのは、一般的に何と言われる時代だったのでしょうか？

- (1) 鎌倉時代 (2) 春秋時代
(3) 戦国時代 (4) 南北朝時代

解説

一般的に「戦国時代」とは、幕府の権威が失墜し、全国の大名家や在地の武士たちが土地の奪い合いや利権の獲得のために争いを繰り返した無秩序な時代を言い、家臣が主君を力で倒してその地位や権力を奪う下剋上が横行した戦乱の時代でした。具体的には応仁元年(1467)に京都で勃発した「応仁の乱」から、家康公によって平和社会の到来が宣言された元禄元年(1615)までの149年間です(終焉の時期については諸説あります)。家康公は天文11年(1542)、戦国時代の真っ只中に生まれました。

その75年の生涯は戦国乱世の中で戦い続けた厳しいものだったのです。



戦国の終焉「大坂夏の陣」大坂夏の陣図屏風 部分
(大阪城天守閣蔵／大阪市)

問題2

家康公が生涯をかけて成し遂げた平和な世の到来。それまで長く続いた戦乱の時代のきっかけとなった争いは何でしょうか？

- (1) 応仁の乱 (2) 承久の変
(3) 平将門の乱 (4) 保元・平治の乱

解説

応仁の乱は、室町時代の応仁元年(1467)から文明9年(1477)まで11年間続いた、京都を中心とする内乱で応仁・文明の乱とも呼ばれます。足利将軍家の相続問題や、畠山・斯波両管領家の家督争いが主な原因ですが、諸国の守護大名が京都の堀川を境に、幕府管領家の細川勝元の率いる東軍と、四職家で侍所別当(頭人)の山名宗全の率いる西軍とに分かれて争いました。両将の死により京都での乱は終わりましたが、争いは京都だけでなくそれぞれの領国にも拡大しており、幕府の権威は失われ、群雄割拠の戦国時代に入っていくきっかけとなったのです。



真如堂縁起絵巻より「応仁の乱」(真如堂蔵／京都市)

問題3

2020年は家康公が江戸に打入り（江戸開府）して何年にあたる年でしょうか？

- (1) 230年 (2) 430年
(3) 630年 (4) 830年

解説

天正18年(1590)、小田原の陣終結後に家康公は豊臣秀吉より、領有していた三河・遠江・駿河・信濃・甲斐の五ヶ国から北条氏の領地であった関東への国替えを命じられ、同年8月1日(朔日)に江戸へ入府しました。移封当時の江戸は、江戸城大手門から東にかけて茅葺きの町屋が100軒あるかないかと伝えられ、城下町を割り付ける場所は10町(約0.1km²)ほどの広さしかなかったと伝えられています。これ以降、江戸の町づくりが計画的に行われ、明暦の大火などを経て防災に強い町づくりが進められたのです。治安状態や衛生状態も良好で、幕末に日本を訪れた諸外国の記者たちも、美しく整備された江戸の町に驚嘆する記事を多く書き遺しています。



江戸総鎮守 神田神社の「神田祭」
江戸三大祭りのひとつに数えられます。(千代田区)

問題4

家康公がつくったまちは、江戸と呼ばれていた期間と東京と呼ばれている期間はどちらが長いでしょうか？

- (1) 江戸のほうが100年以上長い
(2) 江戸のほうが10年ほど長い
(3) 東京のほうが10年ほど長い
(4) 東京のほうが100年以上長い

解説

「江戸」という地名は、平安時代末期には既に存在していたと考えられていますが、一般的には武蔵守護代 扇谷上杉家の武将 太田道灌が「江戸城」を建設したことや家康公が入部した時から、歴史的な表舞台に出てきたと考えても良いでしょう。「江戸時代」は歴史上の区分では慶長8年(1603)に幕府が開かれた年から、明治元年(1868)に「明治」に改元されるまでの265年間を指します。明治以降「東京」に改められてからは今年で153年が経ちますが、「江戸の文化」は日本人の大切なアイデンティティとして今に継承されており、様々な分野での「江戸時代」の研究や見直しが進められています。



江戸城内の武道館

問題5

家康公は天文11年(1542)に^{みかわのくにおかざきじょう たんじょう}三河国岡崎城で誕生しました。誕生日はいつだったのでしょうか？

※旧暦でお答えください。

- (1) 2月12日 (2) 6月2日
(3) 9月15日 (4) 12月26日

解説

家康公は天文11年(1542)12月26日、岡崎城内の坂谷邸で誕生しました。「岡崎領主古記」には、「二の曲輪坂谷の邸、権現様誕生曲輪と申は往古女中等被差置候處にて候由。此處、御誕生の地と申。御産湯水、坂谷透門之下に有之井、此水を御用ひ被遊候由」と記されています。坂谷邸は女官たちの屋敷であり、坂谷透門は現在の能楽堂の下にあった門でした。家康公が生まれた頃の松平家は、東の今川氏と西の織田氏という大きな勢力の間に挟まれて、家康公が生まれる直前には織田・今川が岡崎領内で直接衝突する小豆坂合戦が起きています。家康公は岡崎の危機的な状況の中で誕生したのです。



東照公産湯の井戸(岡崎公園)

問題6

家康公の父は松平広忠ですが、水野家から嫁いだ母の名前は何でしょうか？

- (1) 阿茶 (2) お梶
(3) 於大 (4) 福

解説

「於大」という呼び名は、実際には使われていた記録はありませんが、「寛政重修諸家譜」には「御太方」と記されており、ここから生まれた呼び名ではないかと考えられます。もともと武家社会の系譜には女子の呼び名が記されることはほとんどなく、名字の下に「女(むすめ)」とか「室(妻)」というような表記でしか表されていません。死後の戒名として付けられた名が正式名となります。したがって、於大は「水野氏女」であり、「広忠室」、正式名は「伝通院」ということになります。生涯、家康公を見守った於大は、慶長7年(1602)、家康公の將軍宣下の前年に家康公の京都の居所である伏見城にて死去。葬儀は京都知恩院で営まれ、江戸小石川の伝通院に埋葬されました。



於大像(権の木屋敷/刈谷市)

問題7

家康公は○の年の○の日、○の刻に生まれたため
○童子と呼ばれました。○に当てはまる十二支の
動物は何でしょうか？

- (1) 丑(牛) (2) 申(猿)
(3) 辰(竜) (4) 寅(虎)

解説

家康公は寅年、寅の日、寅の刻に生まれたことから「寅童子」とも呼ばれ、岡崎市の家康行列でも一時期「寅童子隊」がありました。一方で、鳳来寺薬師堂の寅年の守護神である真達羅大将が、家康公の生誕時に忽然と消えたということから、その生まれ変わりであるという伝承が生まれ、真達羅大将を寅童子とも呼んだことから家康公の幼少期を寅童子と呼ぶようになったとも言われています。鳳来寺周辺の地域では郷土玩具として「寅童子」(起き上がり小法師)が作られています。



鳳来寺周辺の郷土玩具「寅童子」

問題8

家康公に付けられた幼名は何でしょうか？

- (1) 仙千代 (2) 竹千代
(3) 長丸 (4) 松千代

解説

竹千代という幼名は、もともとは安城松平家の長子に付けられてきたようです。記録を見る限りでは、安城家二代 長忠(宗家五代)、三代 信忠(宗家六代)、四代 清康(宗家七代)と竹千代名が続いてきました。しかし、家康公の父である広忠(宗家八代)は幼名が千松丸です。理由は明らかではありませんが、清康は安城を出て岡崎に進出しており命名の慣習を変えたのかもしれませんが。家康公からはまた竹千代と命名されるようになり、家康公も長男の信康に竹千代と名付けています。開幕後は徳川将軍家の世子の幼名となり、四代まで(二代 秀忠、三代 家光、四代 家綱)と十代 家治が幼名を竹千代と称しました。なお、秀忠は当初は長松(長丸とも)と命名されています。



竹千代像
(JR静岡駅北口駅前広場／静岡市)

問題9

家康公の両親がお薬師様に子宝祈願を行った寺で、真達羅大将の化身伝説が残る寺はどこでしょうか？

- | | |
|---------|---------|
| (1) 延暦寺 | (2) 寛永寺 |
| (3) 大樹寺 | (4) 鳳来寺 |

解説

鳳来寺は真言宗の寺院です。三河五山の一つとして多くの修験僧の信奉を集めていました。史料には「峰の薬師」と記されていますが、本尊は薬師如来、家康公の母である於大の方が特に信奉していた仏様です。密教では一般的に薬師如来を守護する神として十二体の「大将」が安置されています。いわゆる「神仏習合」の典型的な形ですが、十二神将のものと姿は如来や菩薩であったりするので、これを「本地仏」と言いますが、真達羅大将の本地仏は普賢菩薩という仏様です。また、真達羅大将は寅年と寅の方角の守護神です。家康公の生まれ変わり伝承は、このことに起因していると考えられます。



十二神将像(鳳来寺薬師堂／新城市)

問題10

家康公は、後に「海道一の弓取り」と称されるようになりますが、家康公が生まれた当時、「海道一の弓取り」といわれていたのは誰でしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| (1) 足利義満 | (2) 今川義元 |
| (3) 斎藤道三 | (4) 武田信玄 |

解説

「海道」とは東海道のことを指し、「弓取り」とは弓矢で戦うものから武士、転じて国持大名を指します。領国の駿河・遠江に加え、天文17年(1548)に安城城を攻略し三河全域をほぼ制圧した今川義元は東海一の大名となり、「海道一の弓取り」と謳われるようになりました。義元は父とともに「今川仮名目録」を制定し、法を治世の手段としました。今川館のある駿府の町は治安が良く、商人たちが集まり賑わっていました。そのため荒れた京都からは公家たちも来往し、京風の文化も発達したのです。將軍を補佐し、天下に号令をかけられる大名として、大変な力を持っていたのです。



今川義元像
(桶狭間古戦場公園／名古屋市)

問題11

天文11年(1542)、家康公の生まれる直前に、西の新興勢力尾張の織田信秀と東の駿河・遠江の太守今川義元が三河岡崎の松平領内で直接衝突する戦いが起こりました。何という戦い(合戦)でしょうか？

- (1) 小豆坂合戦 (2) 川中島の戦い
(3) 一言坂の合戦 (4) 矢作川の戦い

解説

小豆坂の合戦は、西三河の覇権をめぐる織田氏と今川氏の争いで、二度起きたとされています。第一回目の合戦が天文11年(1542)8月、家康公生誕の年に起きました。尾張の織田氏が安城城を攻め落とし、さらにその勢いが岡崎に迫ると、岡崎城主の松平広忠が今川義元に救援を求めたため起きた合戦とされています。結果は織田方有利なうちに痛み分けとなりましたが、安城を中心とする松平一族の離反が相次ぎ、6年後の天文17年(1548)には二度目の合戦が小豆坂で起きたのです。ただ近年では、織田氏と今川氏の関係について新説も出されており、今後の研究が期待されます。



小豆坂古戦場跡(岡崎市)

解答… (1)

問題12

家康公が誕生した翌年に、日本に漂着したポルトガル船によって我が国に鉄砲が伝来しました。ポルトガル船が漂着した場所はどこだったのでしょうか？

- (1) 堺 (2) 佐渡島
(3) 種子島 (4) 対馬

解説

戦国時代、種子島に漂着したポルトガル人により日本に初めて鉄砲が伝えられました。戦国期から江戸時代初期の薩摩国大竜寺の禅僧南浦文之の記した『鉄炮記』によると、1543(天文12)年、種子島に漂着したポルトガル人の所持する鉄砲2挺を、領主の種子島時堯が買い求め、鍛冶職人に国産化を命じたのが始まりとされています。以来、多くの戦国大名たちが鉄砲を入手し鉄砲隊を組織しました。同時に製法を学び、自分たちで量産できる体制も整っていきました。結果、戦国末期には、日本は世界最大の鉄砲保有国になったのです。

種子島総合開発センター鉄砲館
(鹿児島県西之表市)

解答… (3)

問題13

天文13年(1544)、家康公の母は離縁され実家の水野家に戻りました。離縁の原因は何だったのでしょうか？

- (1) 夫婦仲が悪く、父の広忠が追放したため。
- (2) 重い病を患った母が、実家に戻ることを望んだため。
- (3) 代替わりで水野家を継いだ信元(母の兄)が、今川方から織田方に転じたため。
- (4) 父 広忠が今川義元の命令で今川家から正室を迎えることになったため。

解説

広忠から離縁された於大は、実家である水野氏の刈谷城に戻され、「椎の木屋敷」で暮らしたとされています。さらに天文16年(1547年)には、兄の水野信元の意向で知多郡阿古居城(坂部城、現阿久比町)の城主 久松俊勝に再縁しました。俊勝はもともと水野氏の女性を妻に迎えていたのですが、妻の死後は水野氏との関係が薄れることを避けたためではないかと考えられています。政略的な結婚ではありましたが、於大は俊勝との間に3男3女をもうけました。また、この間にも家康公との音信を取り続け、その身を案じていたとも伝えられています。



水野氏の菩提寺／楞嚴寺
(刈谷市)

解答… (3)

問題14

天文16年(1547)、6才の家康公は今川家への人質として駿府に向かう途中、田原城主により今川家が敵対する尾張の織田家に送られてしまいました。父広忠の継室(後妻)の真喜姫の実家である田原城主は何氏でしょうか？

- | | |
|----------|---------|
| (1) 朝比奈氏 | (2) 奥平氏 |
| (3) 吉良氏 | (4) 戸田氏 |

解説

戸田氏はもともと上野地域(豊田市上郷付近)の在地領主で知多半島(尾張知多郡)にも所領がありましたが、15世紀の半ばに松平氏とともに「額田郡一揆」を鎮め渥美半島(渥美郡)に新たな領地を得ると東三河に渡って行ったと考えられています。以来、田原城を本拠地に三河湾で繋がる両半島に勢力を広げ、岡崎の松平氏とも友好的な関係を続けていたと思われます。しかし、知多の所領は台頭してきた織田氏の影響下に入ったのでしょうか。戸田康光が織田信秀に従っていたと言っても不自然なことではなかったとも考えられます。



戸田一族の墓所／長興寺(田原市)

解答… (4)

問題15

天文18年(1549)、今川義元は織田方^{あんじょうほう}の安城城^せを攻^せめて城代^{じょうだい}を捕^とらえ、人質交換^{ひとじちこうかん}により8才の家康公^{けいこう}を駿府^{しんぷ}に迎えます。このとき、家康公との人質交換^{だれ}が成立した安城城^{だれ}の城代とは誰だったでしょうか？

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| (1) 明智光秀 ^{あけち みつひで} | (2) 織田信広 ^{のぶひろ} |
| (3) 佐久間盛重 ^{さくま もりしげ} | (4) 柴田勝家 ^{かついえ} |

解説

織田信広は織田信秀^{しんしゅう}の長男(庶子)で信長の異母兄にあたる人物です。天文17年(1548)に織田信秀は尾張の末盛城より出陣し、岡崎領内の小豆坂^{しりぞ}で再び今川軍と戦いますが撃退^{げきたい}され安城城^{とど}に退きました。その際に従軍していた信広を安城城に留めて守備を任せ帰国しました。翌年、今川氏による安城城攻めが行われ、いったんは死守したものの、二度目の攻撃で城は陥落、城代の信広は捕縛^{ばく}されたのです。この時に西三河における織田氏の勢力は壊滅状態となりました。信広は天正2年(1574年)の信長による伊勢長島一向一揆攻めにおいて討死しています。



安城城址(安城市)

問題16

駿府で人質時代の家康公を養育した源応尼^{げんおうに}(華陽院^{けいよういん})とは誰だったのでしょうか？

- (1) 家康公の祖母(母の母) - 於富^{おとみ}
- (2) 家康公の大叔母(祖父清康の妹) - お久^{ひさ}
- (3) 家康公の継母(父の継室=後妻) - 真喜姫^{まきは}
- (4) 松平家の家臣内藤家の娘 - お松

解説

家康公の祖母である源応尼については、確かな史料が乏しく、その生涯について確証が得られているわけではありません。刈谷城主水野忠政のもとから、岡崎城の松平清康に嫁ぎ、清康死後には他家に再嫁しました。その後、竹千代が駿府で人質として過ごしているときに、今川義元からその養育を請われて駿府まで赴き、知源院というお寺で読み書きなどを教えたと伝わっています。桶狭間の合戦があった年に亡くなりましたが、家康公は後にこの知源院に墓を建て菩提寺とし、寺名を法名である華陽院としたのです。



華陽院(源応尼)墓(華陽院/静岡市)

問題17

駿府での家康公の学問や兵法の師に任じられた名僧で、今川家の重臣であり軍師でもあったのは誰でしょうか？

- (1) 安国寺恵瓊 (2) 快川紹喜
(3) 本願寺顕如 (4) 太原雪斎

解説

太原雪斎はもともと今川氏の重臣の家に生まれましたが、若くして臨済宗の僧となり、京都の建仁寺で修業を行っています。今川義元も幼少のころから僧としての教育を受け、このころから雪斎の教育を受けていました。やがて、義元が駿河国の太守になると、政治・軍事などで重要な役割を果たすようになり「黒衣の宰相」と呼ばれたのです。家康公が人質として駿府にいた際に、臨済寺で雪斎の教育を受けたと伝わりますが、実際は雪斎の弟子たちによって教育を施されたという説もあります。いずれにしろ、義元が竹千代を大事に育てていた様子が窺えます。



太原雪斎木像(臨済寺蔵／静岡市)

解答… (4)

問題18

弘治元年(1555)、家康公は14才で元服し、名を松平元信と改めました。元服の儀式で烏帽子親を務めたのは誰でしょうか？

- (1) 今川義元 (2) 関口親永
(3) 鳥居忠吉 (4) 松平広忠

解説

元服とは現在でいう成人式です。武家の元服の儀式「加冠の儀」では、烏帽子親から「烏帽子」という冠を被せてもらいます。この烏帽子親は主家や有力者に依頼することも多く、元服する者は烏帽子親の名前の一字を譲り受け、一族に近い立場となることが鎌倉幕府の歴史書である「吾妻鏡」に記されています。家康公の場合も義元の「元」の一字を譲り受け、松平元信と名乗るようになりました。また理髪(童髪)の役(元服の儀式で童髪から成人用の髪に結い直す役)を務めた関口親永(義広)は後に家康公の正妻となる築山殿の父であることから、義元は家康公を今川一門へ組み込んでいくことを望んでいたのでしょう。



今川義元木像(臨済寺蔵／静岡市)

解答… (1)

問題19

前問の元服の儀式が執^とり行われた場所はどこだったでしょうか？

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| (1) 駿府今川館 | (2) 浅間神社 ^{せんげん} |
| (3) 鶴岡八幡宮 ^{つるがおか} | (4) 臨済寺 ^{りんざい じ} |

解説

静岡浅間神社は駿河国総社として、鎌倉時代より多くの武士や大名たちに崇敬されてきました。鎮座地の賤機山^{しずはたやま}は、静岡の地名発祥の地として知られています。家康公は駿府人質時代よりこの浅間神社を崇敬しており、元服の儀式も今川義元の計らいで、ここで行われたのです。家康公が武田氏との戦いで焼き払い再建した神社を、三代將軍 家光^{しやでん}がさらに立派に改修を行い、26棟を数える社殿が国重要文化財に指定されています。特に高さ25mの大拝殿^{はいでん}は出雲大社よりも高く、日本一の高さを誇ります。



静岡浅間神社大拝殿(静岡市)

問題20

永禄元年(1558)、家康公は織田方に転じた鈴木^{すずき}氏^{ういじん}が守る三河寺部城^{てらべじょう}を攻めて初陣^{かざ}を飾り、その戦功により今川義元^{へんかん}から岡崎の旧領のうち300貫文^{かんもん}の地が松平家に返還されました。返還された地とはどこでしょうか？

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| (1) 岩津 ^{いわづ} | (2) 土呂 ^{とろ} |
| (3) 矢作 ^{やはぎ} | (4) 山中 ^{やまなか} |

解説

家康公は初陣の戦功により、今川義元^{ちきやうげん}より「御太刀を下され、山中三百貫の知行返給^{ちかぎ}る」(『松平記』)と旧領の山中が返還されました。桶狭間合戦直後の永禄3年(1560)7月9日に、山中郷にある法蔵寺(岡崎市本宿町)に対して禁制と寺領安堵状^{あんどうじょう}を与えていることから、山中が家康公の領有下にあることを示した様子が窺えます。これはすでに永禄元年には義元の跡を継いだと考えられている嫡子の氏真^{うぢまこと}が、この地域の国人衆や寺社に多数の安堵状を発給して影響力を持ち続けようとしていたからであり、西三河での自立を目指す家康公との間に領有権争いが生じていた様子を見て取ることができます。



山中八幡宮慶取門(岡崎市舞木町)

問題21

家康公と正室の瀬名(後の築山殿)の間には、永禄2年(1559)に長男が、翌3年には長女が誕生しています。長女の名は何でしょうか？

- (1) 朝日姫 (2) 五六八姫
(3) 亀姫 (4) 千姫

解説

家康公には16名の子どもたちがいました。そのうち男子は11名、女子は5名です。長女は正室 築山殿との間に生まれた亀姫で、長篠の合戦で城を守り抜き功を挙げた奥平信昌に嫁ぎました。亀姫は信昌との間に4人の男児(家昌・家治・忠政・忠明)と1女をもうけています。後に関ヶ原の戦いの戦勝により、慶長6年(1601)に信昌が美濃加納10万石に封じられると、三男 忠政共々加納に移り、加納御前と呼ばれるようになりました。やがて忠政、宇都宮藩の嫡男 家昌、夫 信昌と夫子らの相次ぐ死を受けて剃髪し、盛徳院と号して幼少の藩主となった孫たちを後見しました。



加納城二ノ丸門(岐阜市)

問題22

永禄3年(1560)、今川義元が尾張に侵攻した「桶狭間の合戦」では、家康公は最前線で孤立する今川方の城への兵糧入れを成功させました。その城とはどこでしょうか？

- (1) 安城城 (2) 大高城
(3) 刈谷城 (4) 清洲城

解説

桶狭間の合戦については諸説がありますが、明らかになっているのは、尾張領に置かれた今川方の大高城、鳴海城が織田方の砦に囲まれ、今川義元は救援要請の出ていた大高城に兵糧を入れなければならなかったという状況です。この危険な任務を受けたのが19歳の松平元康(のちの家康)でした。大高城を守っていたのは今川家の重臣で西郡(現在の蒲郡市)上ノ郷城主 鵜殿長照です。元康は大高城付近の丸根砦から、織田兵が攻撃を仕掛けてこない様子を見届けると、夜陰に乗じて兵糧入れに成功しました。義元はこの報告を受け大喜びをしたと伝えられています。



大高城本丸跡(名古屋市)

問題23

桶狭間で大将の今川義元が討ち取られ、家康公は菩提寺の岡崎の大樹寺に退却。先祖の墓前で自害を覚悟したとき、住職から生きる意義を諭され、「厭離穢土 欣求浄土」の言葉を授かりました。この住職とは誰でしょうか？

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| (1) 祖洞和尚
<small>そ どう おしょう</small> | (2) 沢庵和尚
<small>たくあん</small> |
| (3) 天海僧正
<small>てんかいそうじょう</small> | (4) 登誉上人
<small>とう よしょうにん</small> |

解説

桶狭間の合戦で有利と見られていた今川義元が、信長の攻撃で敗れ無く討ち死にをすると、大高城にいた松平元康はここを脱出、僅かな兵で岡崎の大樹寺に逃げ込みました。しかしここも織田方の追手に囲まれ、最後を覚悟した元康が先祖の墓の前で自決をしようとした時に、住職である登誉上人がそれを諫め「厭離穢土、欣求浄土」の言葉を与えたのです。この言葉はもともと平安時代、浄土教の祖と称される僧 源信が著した「往生要集」の第一巻、二巻のテーマでもありました。極楽浄土を目指す戦いをしなさい、登誉が若き家康公にその意味を説いたのです。



登誉上人木像
(大樹寺蔵／岡崎市鴨田町)

問題24

永禄4年(1561)、家康公は今川方の牧野氏が守る東三河の城を攻め、今川氏真と断交し自立の道を進むことを内外に示しました。この今川方の城とはどこでしょうか？

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| (1) 牛久保城
<small>うしく ほじょう</small> | (2) 田原城
<small>た はら</small> |
| (3) 作手城
<small>つくで</small> | (4) 長篠城
<small>ながしの</small> |

解説

桶狭間の合戦後、家康公は織田信長と和睦を進め、三河全域の支配を目指しました。そのために菅沼氏や西郷氏等の東三河国人衆を味方につけ、今川方の拠点の一つであった牛久保城(豊川市)を攻めたのです。永禄4年(1561)4月、牛久保城へ夜襲をかけた家康公でしたが、城主の牧野成定不在(西尾城番で留守にしていた)にも関わらず城方の奮戦により失敗に終わりました。このことは駿府の今川氏真に伝わり、今川軍の猛反撃が始まることとなります。今川氏から見れば「元康の反逆」でしたが、家康公の「今川氏からの自立」がここから始まったと言えます。



牛久保城址碑(豊川市)

問題25

永禄6年(1563)は家康公にとって大きな出来事^{できごと}がいくつか起こった年でした。次の中で、この年の出来事ではないものはどれでしょうか？

- (1) 家臣団を二分する三河一向一揆^{いっこういっ き ぼっばつ}が勃発した。
- (2) 名前を「元康」から「家康」^{あらた}に改めた。
- (3) 長男と、織田信長の娘 徳姫^{とくひめ}との婚約^{こんやく}が成立した。
- (4) 側室^{さいごう}の西郷^{せいこう}の局^{つね}が三男^{ちゅうまる}の長丸^{ひでただ}(後の秀忠)を出産した。

解説

永禄6年(1563)は、元康が今川氏からの決別を示すため「家康」に改名した年でした。義元^{はづ}の一字を外し、源義家の一字を付けたのです。これは、長男の信康と織田信長の娘 徳姫との婚約が成立したことで、織田・松平の同盟関係が確固たるものになったことも大きな要因でしょう。しかし改名した直後に、真宗本願寺派^{じょうぐう じ しょうまん じ}の上宮寺・勝鬘寺^{ほんしやう じ}・本證寺のいわゆる三河三ヶ寺と本宗寺による三河一向一揆^{ぼっばつ}が勃発、家臣団を二分する内乱となり、家康公は最大の苦境に立たされることになります。

後の二代將軍秀忠が浜松で誕生したのは16年後の天正7年(1579)のことです。



三河一向一揆の様子／改正三河後風土記より

解答… (4)

問題26

家康公の岡崎城主時代の最大の試練^{しれん}といわれる三河一向一揆^{ほんしやう じ じやうぐう じ しょうまん じ}では、本證寺^{きよてん}、上宮寺、勝鬘寺の「三河三ヶ寺」が一向一揆勢力の拠点となりましたが、これら三ヶ寺が宗主とする浄土真宗本願寺派^{じやうど しんしやうほんがん じ は}の中心寺院はどこでしょうか？

- (1) 桑子の妙源寺^{くわ こ みやうげん じ}
- (2) 菅生の満性寺^{す ごう まんしやう じ}
- (3) 土呂の本宗寺^{と ろ ほんしやう じ}
- (4) 矢作の勝蓮寺^{や は ぎ しょうれん じ}

解説

土呂(現在の福岡町)の本宗寺は、真宗本願寺派^{れんにょしやうにん}を広めた蓮如上人による創建であり、本願寺派三河教団の中心寺院でした。一向一揆の頃も蓮如の孫である実円が住職を務めており、一揆の精神的な支柱でもあったと考えられます。そのため、一揆の終結に伴い本宗寺は焼き払われ、隣接していた土呂八幡宮も焼失してしまいました。家康公は土呂八幡宮の再建を石川数正に命じ、その後、土呂市の復興も認めました。ただ本宗寺の土呂での再建はなされず、いったん岡崎城の西南^{み さい}に、その後は美合の現所在地に移されました。



土呂殿本宗寺(岡崎市美合町)

解答… (3)

問題27

三河一向一揆で父が一揆方だったため、終結後は父とともに放浪し、長浜城主だった羽柴秀吉に仕えて活躍し、後に40万石の大名に出世した三河出身の武将は誰でしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| (1) 伊奈忠次 | (2) 加藤嘉明 |
| (3) 藤堂高虎 | (4) 前田利家 |

解説

加藤嘉明は豊臣秀吉の重臣として有名な武将ですが、生まれは三河国幡豆郡です。父親は松平家に仕える武士でしたが、三河一向一揆で門徒側に属したため、その後は各地を放浪しました。その後、豊臣秀吉に仕え、賤ヶ岳の戦いでは「七本槍」の一人として活躍、秀吉に大いに認められます。小田原攻めや朝鮮出兵などに参加し、藤堂高虎と功を競ったことは有名です。関ヶ原の戦いでは家康公の東軍に属し、合戦後は伊予松山藩主となりました。松山の地名は嘉明によって名付けられています。大坂の陣でも活躍し、後に会津40万石を与えられました。



加藤嘉明騎馬像(愛媛県松山市)

問題28

一揆方について戦った三河武士の多くが後に家康公に赦されて帰参していますが、次の中で赦されずに帰参がなかったのは誰でしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| (1) 酒井忠尚 | (2) 夏目吉信 |
| (3) 本多正信 | (4) 渡辺守綱 |

解説

酒井忠尚については詳しい史料に乏しく、一揆後の行方については駿府に落ち延びたとも云われますが、真偽は不明です。忠尚はもともと松平清康、広忠に仕えた重臣でした。しかし家康公に仕えたときは、今川氏から離反し織田氏と同盟を結ぶことに強く反対していたと伝えられています。それ故か、一向宗門徒としての立場ではなく、反家康側として上野城(豊田市上郷町)で戦った記録が残されています。その配下には本多正信をはじめとする多くの譜代家臣が含まれていました。榊原康政が、自分の育った城であった故に、初陣でありながら先陣を名乗り出て功を挙げた戦いでもありました。



榊原康政生誕地の碑が立つ上野城址(豊田市)

問題29

三河一向一揆を乗り切り、三河を統一した家康公は三河武士団の再編を行い家臣団を大きく東三河衆、西三河衆、旗本の三軍で組織する「三備の制」と呼ばれる軍制を整えました。このとき、西三河のリーダー(旗頭)に選ばれたのは誰でしょうか？

- (1) 石川家成 (2) 酒井忠次
(3) 鳥居忠吉 (4) 本多重次

解説

いわゆる「三備の軍制」は組織されたものというより、家康公からの指示系統を明確にしたものだったと言えるでしょう。東西の旗頭は家康公の右腕として、松平一族や国衆、城持ち衆などに指示を出していました。例えば、深溝松平家忠が吉田城の酒井忠次から家康公の指示を得ていた様子が「家忠日記」に多く記されています。西三河旗頭は当初は石川家成でしたが、永禄12年(1569)、今川氏真没落後に掛川城主に任じられたことから、甥の石川数正が後任として抜擢されています。



石川家成茶毘地(岡崎市鴨田町)

問題30

「三備の制」のひとつ、旗本には、家康公の親衛隊ともいえる旗本先手役と身辺警護や情報伝達のスペシャリストの馬廻役が置かれていましたが、次の家臣の中で、馬廻役に任じられたのは誰でしょうか？

- (1) 酒井正親 (2) 服部正成
(3) 本多忠勝 (4) 松平家忠

解説

家康公の馬廻役として挙げられるのは、服部正成をはじめ、渡辺守綱、蜂屋貞次などですが、特に守綱や貞次は一揆の際に門徒側について戦った者たちでした。家康公はそういう者たちを敢えて身辺警護に登用したのではと考えられます。蜂屋貞次は吉田城攻めの時に、自らの命を落としながらも見事に家康公を守ったと伝えられます。服部正成は使番として配下の者たちに主に情報伝達の役を負わせていました。家康公の合戦図によく見られる「五」、「伍」の旗を背負っている武士たちが使番です。



服部正成墓(西念寺/新宿区)

問題31

永禄11年(1568)、家康公は今川領である遠江に進出しますが、時を同じくして今川領である駿河に侵攻した武将は誰でしょうか？

- (1) 織田信長 (2) 武田信玄
(3) 伊達政宗 (4) 北条氏康

解説

家康公と武田信玄は今川領への侵攻にあたり、領地切り取りや侵攻の時などについて密約を交わしていました(異説あり)。永禄11年(1568)12月、信玄が駿府に侵攻すると家康公は遠江に侵攻、井伊谷・白須賀の城を落とし、曳馬城(後の浜松城)を手中に入れたのです。信玄は駿府を陥落させますが、今川氏真は掛川城に逃れます。信玄より掛川城攻略の要請を受け、家康公は何ヶ月もかけて掛川城を落とししました。しかしその最中に信玄が密約を反故にしたことから、両者の関係は崩れ、やがて対決への道をたどることになるので



武田信玄像(JR甲府駅南口広場／山梨県甲府市)

問題32

前問の駿河侵攻を受け、駿府を捨てざるをえなかった今川氏真は、家臣の朝比奈泰朝の居城に逃げ入ります。この城は何というのでしょうか？

- (1) 井伊谷城 (2) 小田原城
(3) 掛川城 (4) 吉田城

解説

今川氏真が掛川城に逃げ込み、武田信玄の要請を受けて家康公が攻略した経緯は前問で述べました。その掛川城は浜松から大井川流域に至る街道の要衝に立地し、現在でも天守が復元されて存在感を示しています。戦国時代に今川氏の重臣である朝比奈氏によって、逆川の北沿岸にある龍頭山に築かれたとされています。現在見られる城郭の構造の大部分は家康公関東移封後に城主となった秀吉の家臣 山内一豊によって造られました。本丸を中心に、北に天守曲輪である天守丸、その北に竹之丸、南に松尾曲輪、西に中の丸、東に二ノ丸と三ノ丸、その南を惣構えで囲んだ大変立派な平山城です。



掛川城(掛川市)

問題33

大名としての今川氏は滅亡し、家康公は居城を岡崎から浜松に移します。家康公の替わりに岡崎城主になったのは誰でしょうか？

- (1) 石川数正 (2) 久松俊勝
(3) 平岩親吉 (4) 松平(徳川)信康

解説

信康の呼称は「岡崎三郎信康」とされています。正しくは岡崎松平三郎信康です。徳川姓については、家康公は名乗らせてはいなかったのではないかと思います。永禄10年(1567)、信康は信長の娘 徳姫と9歳で結婚しましたが、その一ヶ月後に岡崎城主となりました。元服前の子供であったため、徳川の軍制には含まれず命令系統も明確にされないままであったと考えられます。このことが後々混乱を生むことにつながるのでしょう。15歳で初陣を果たし、勇猛果敢な武将として成長します。そして三河の国人衆を岡崎城下に呼び寄せ、城主としての振る舞いを見せるようになるのです。



岡崎三郎信康(勝蓮寺蔵/岡崎市矢作町)

問題34

元亀元年(1570)、家康公は同盟関係にある織田信長の出兵要請を受け越前に出陣。退却にあたり「金ヶ崎の退き口」と呼ばれる撤退戦を成功させたと伝われます。この越前攻めで家康公たちが戦った大名は誰だったのでしょうか？

- (1) 浅井久政 (2) 朝倉義景
(3) 上杉謙信 (4) 松永久秀

解説

戦国大名たちの中で一足早く京に上り、将軍 足利義昭を擁立して天下の実権を手の中にしつつあった織田信長に、激しく敵対心を抱いたのが越前国の朝倉義景です。信長は近江の浅井長政に妹のお市を嫁がせ、浅井氏と朝倉氏の関係を断った上で朝倉氏の支城である金ヶ崎城を攻めたのです。ところが城を開城させると浅井長政は朝倉方につき、義景とともに金ヶ崎城を挟み撃ちにしようとした。信長は決断早く全軍の撤退、引き揚げを命じ、秀吉などが後陣を行ったという記録が残されています。家康公も後陣を引き受けたというのは、江戸時代の「徳川実記」などに書かれていますが、真偽のほどは不明です。



朝倉義景画像複製
(滋賀県長浜市蔵)

問題35

元亀3年(1572)、浜松城にいた家康公が甲斐の武田信玄に城外に誘い出されて大敗した場所はどこでしょうか？

- (1) 安倍川原 (2) 犀ヶ崖
(3) 馬頭原 (4) 三方ヶ原

解説

武田信玄が遠江に侵攻した際、家康公は浜松城に籠城し戦う作戦を立てていました。ところが、信玄は堅固な浜松城に家康公が籠城しないように、城外へ誘い出す作戦をとりました。浜松城を素通りした信玄に対し、家康公は家臣の反対を押し切り、城外へ打って出ます。三方ヶ原へ誘い出された家康公は、祝田の坂で待ち構えていた信玄に大敗します。浜松城へ逃げ帰る家康公を守るために奮闘した家臣の一人が夏目吉信です。吉信は一向一揆の後、帰参を赦された恩義を家康公に返すために、命を賭して忠義を尽くしました。三河武士の典型の一つといえます。



三方ヶ原古戦場碑(浜松市)

解答… (4)

問題36

前問の場所での戦いで家康公の身代わりとなって討ち死にし、浜松市に旌忠碑が建ち、岡崎の法蔵寺と幸田の明善寺に墓がある武将は誰でしょうか？ 三河一向一揆では一揆方に付き、終息後に赦されて帰参した家臣のひとりです。

- (1) 吉良義昭 (2) 夏目吉信
(3) 蜂屋貞次 (4) 本多正重

解説

夏目氏は幸田町六栗に在住した、古くからの松平氏譜代家臣でした。夏目吉信は家康公が岡崎城で自立を果たすと、西三河平定戦などで活躍し賞されますが、永禄6年(1563)に勃発した三河一向一揆では門徒側として家康公に敵対したのです。六栗に近い野場城に籠って戦いましたが、深溝松平伊忠に捕らえられました。一揆終結後には赦され、三河や遠江の郡代を務めたとされています。吉信は赦されたことへの恩を忘れることなく、三方ヶ原の合戦では窮地に陥った家康公の身代わりになって命を救い、自らは敵陣に攻め入って落命しました。その忠節は地元の浜松市で大いに顕彰され、犀ヶ崖古戦場に「夏目次郎左衛門吉信旌忠碑」が建てられました。



夏目吉信墓(明善寺／幸田町)

解答… (2)

問題37

前問の合戦に勝利し、浜松城から三河に向かう陣中で病没した武田信玄の跡を継いだ勝頼は、天正3年(1575)、徳川方に付いた長篠城を包囲し、長篠の戦いが始まります。この城の守将で、戦後、家康公の長女を妻にする武将は誰でしょうか？

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| (1) 奥平信昌
おくだいらのぶまさ | (2) 菅沼定盈
すがぬまさだみつ |
| (3) 鳥居強右衛門
とりい すねえもん | (4) 山県昌景
やまがたまさかげ |

解説

奥平氏の本拠地である作手地方(愛知県新城市)がある奥三河は、中世、「山家三方衆」と呼ばれた作手の奥平氏、田峯の菅沼氏、長篠の菅沼氏が割拠する地域でした。戦国時代になり、奥三河に進出した今川氏や武田氏、徳川氏は、武力や調略を駆使しながら山家三方衆を自陣営に取り込み、地域支配を有利に進めようしました。家康公が長女 亀姫を信昌に嫁したのも、有力国人であった奥平氏を自陣営に取り込むための方策の一つでした。奥平氏の離反に激怒した武田勝頼が長篠城を取り囲みますが奥平信昌は城を守り抜きました。



奥平信昌画像
(建仁寺塔頭久昌院蔵／京都市)

解答… (1)

問題38

長篠・設楽原の戦いで織田・徳川連合軍は武田方の拠点である鳶ヶ巣砦を急襲して陥落させ、これが連合軍の勝利の大きな要因のひとつとなりました。この鳶ヶ巣砦の夜襲を提案・指揮した武将は誰でしょうか？

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| (1) 酒井忠次
さかいただつ | (2) 榊原康政
さかきばらやすまさ |
| (3) 羽柴秀吉
はしばひでよし | (4) 本多忠勝
もろともかつ |

解説

犬山白帝文庫や大阪城天守閣資料館の「長篠合戦図屏風」には、長篠城を見下ろす位置の鳶ヶ巣砦を酒井忠次や松平伊忠らが攻めている様子が描かれています。そのすぐ近くには長篠城の門を開け、橋を渡って攻め出す城兵たちの様子も描かれています。鳶ヶ巣砦は長篠城攻囲の急所ともいえる場所だったのです。酒井忠次は信長との軍議の中で、この砦を奪い取ることを申し出、作戦は見事に成功しました。設楽原に織田・徳川の大軍が陣を構えた状況で、武田軍はそこで戦うのか撤退するのか決断を迫られることになったのです。



鳶ヶ巣砦の攻防
(長篠合戦図屏風より／大阪城天守閣蔵)

解答… (1)

問題39

天正8～9年(1580～1581)の武田勝頼たかてんじんとの高天神城じょうの戦いで家を継いでいた弟が戦死したため、僧侶りょうから還俗げんぞくして家督か相続とくし、この後、家康公による国づくりや京都の治安維持・朝廷対策等の中心人物として活躍かつやくした家臣は誰でしょうか？

- (1) 井伊直政い い なおまさ (2) 板倉勝重いたくらかつしげ
 (3) 土井利勝ど い としかつ (4) 本多正信まさのぶ

解説

板倉勝重で有名になった板倉氏ですが、もともとは下野国(栃木県)足利郡板倉に起こり、勝重の祖父にあたる頼重の時に三河国額田郡小美村(岡崎市小美町)に移ったと伝えられます。頼重は深溝松平氏に仕え、その子供で勝重の父である好重も家老として仕えましたが、永禄4年(1561)の善明堤の戦いで戦死します。勝重は次男であったこともあり、幼少のころには出家して真宗の僧となっていました。家督は三男が継いでいましたが高天神城の戦いで戦死してしまいます。そこで家康公より板倉家を継ぐよう要請があり還俗して板倉家を継いだのです。



板倉勝重画像(長圓寺蔵／西尾市)

解答… (2)

問題40

天正10年(1582)、織田信長の甲州征伐に伴い家康公は駿河から甲斐に侵攻しますが、このとき、家康公に内通・降伏こうふくし、甲府への案内役を務めた武田一門の重臣で、「本能寺の変」のあと、「伊賀越え」をする家康公と別れて帰る途中に命を落とした武将は誰でしょうか？

- (1) 穴山信君(梅雪)あなやまのぶただ ばいせつ (2) 木曾義昌き そよしまさ
 (3) 武田信廉たけだ のぶかど (4) 仁科信盛にしなのぶもり

解説

穴山氏は武田一門衆として位置付けられ、家臣団の中では特に重きをなしていたとされています。ただ、信玄亡き後は、跡を継いだ勝頼から不当な扱いを受けていたとされ、早くから織田氏に内応していました。織田信忠の甲斐侵攻に際しては、甲府にいた織田氏からの人質を逃亡させ、甲斐一国の信君への拝領と武田氏の名跡継承を条件に、家康公の誘いに乗ったとされています。その結果、信君は信長より甲斐河内領と駿河江尻領を安堵され、また家康公の与力として位置づけられました。信君は本能寺の変後に死去(殺害とも自殺とも)しますが、子供の勝千代が武田の名跡を継ぎ(武田信治)、約束は果たされたのです。



穴山梅雪墓(京都府京田辺市)

解答… (1)

問題41

京都 本能寺で主君の織田信長を討った織田家の
武将は誰でしょうか？

- (1) 明智光秀 (2) 長宗我部元親
(3) 筒井順慶 (4) 前田利家

解説

NHKの大河ドラマにもなりましたね。

明智光秀の前半生は不明な点が多いですが、一般的には土岐一族に属し、名門の出自と考えられています。ただ、美濃の斎藤道三が亡くなると越前の朝倉義景に仕え、やがて足利將軍家に仕える立場となりました(足輕大将)。織田信長とは足利十五代將軍 義昭の擁立を通して知己を深め、一時期は將軍家と信長に属した「両属」の武将として存在したようです。本能寺の変の原因は多様な説がありますが、政権交代期にあって生じた様々な難しい関係(旧將軍家、朝廷、畿内周辺諸国などとの交渉で苦しんだことが、次第に光秀を追い詰めていったのではないかと考えられます。



明智光秀像
(坂本城址公園／滋賀県大津市)

問題42

天正10年(1582)6月、甲州征伐の戦勝祝いに信長の居城を訪れたのち堺に滞在していた家康公一行は「本能寺の変」で信長の死を知り「伊賀越え」で岡崎城に戻りました。家康公一行が訪れ歓待を受けた信長の居城とはどこでしょうか？

- (1) 安土城 (2) 岐阜城
(3) 清洲城 (4) 二条城

解説

甲州征伐の戦勝祝いで安土城に招かれた家康公一行が、信長から歓待された様子が「家忠日記」にも克明に記されています。「信長自ら家康公に膳を進めた」「信長自ら粉を引きこがし(麦こがし)の菓子を振舞った」「随行した家臣とその妻たちにも紅色のすずし(正絹の肩衣)を持たせた」等々。家康公一行は安土を出たのち、京に一週間ほど滞在し、本能寺の変の前日に堺に入りました。そして本能寺の変の翌日早朝には出立し、そのまま甲賀・伊賀・伊勢を経て岡崎まで逃げ帰ったのです(伊賀越え)。



安土城跡見寺三重塔
(滋賀県近江八幡市)

問題43

家康公は、信長の死により混乱し、支配者のいなくなった上野・信濃・甲斐の支配権をかけて周辺の大名家や国人衆と争い、その結果、甲斐一国と北部4郡を除く信濃国は徳川家の領地となりました。では、信濃の北部4郡を領地にしたのは誰でしょうか？

- (1) 上杉景勝 (2) 真田昌幸
(3) 柴田勝家 (4) 三好長慶

解説

信長が倒れた天正10年(1582／壬午の年)に勃発した、上野・信濃・甲斐の旧武田領三国の領有権をめぐる争乱。「天正壬午の乱」と呼ばれていますが、もともとは「甲斐一乱」と呼ばれていました。北条氏による上野国の織田領侵攻が発端となりましたが、徳川・北条・上杉らの大名、各国の国人衆、また武田の旧臣などによる衝突が三国各地で勃発し、徳川氏と北条氏の和睦が成立するまでのおよそ5ヶ月間続いたのです。和睦の内容は、徳川が甲斐・信濃を、北条が上野を領有するというもので、これには北信濃の国人衆、とりわけ上野国沼田城主でもあった真田氏らが反発、後に火種を残すことになりました。



上杉景勝画像
(上杉神社蔵／米沢市)

解答… (1)

問題44

甲斐、信濃を加え五ヶ国大名となった家康公は、信長の次男 織田信雄の要請を受けて同盟し、羽柴秀吉と対決します。尾張小牧での対峙が続く中、秀吉軍は三河岡崎城への奇襲作戦を実行しますが、情報を得た家康公は長久手で秀吉軍を急襲し大きな打撃を与えました。この秀吉軍の「三河中入り作戦」の総大将は誰だったのでしょうか？

- (1) 池田恒興 (2) 石田三成
(3) 羽柴秀次 (4) 森 長可

解説

羽柴秀次は元々は秀吉の姉の子、甥にあたる人物です。幼いころから秀吉の政略に使われ、宮部家の養子(人質)、そして三好家の養子として過ごしました。天正12年(1584)、秀吉の後継候補として羽柴姓に復した秀次は「三河中入り」作戦の総大将として出陣しましたが大敗、秀吉から勘気を被ったと伝えられます。後には豊臣姓を許され、秀吉が跡継ぎに恵まれなかったこともあり、実質的な後継者となっていました。ところが秀吉に秀頼が生まれると不安定な立場となり、やがて高野山に謹慎となり切腹を命じられました。妻子や女官たちもみな処刑となり悲惨な結果を迎えたのです。



豊臣秀次像
(近江八幡市)

解答… (3)

問題45

前問の「小牧・長久手の戦い」の和睦にあたり、家康公は次男の於義丸(後の秀康)を秀吉の養子として差し出しましたが、後の天正18年(1590)、秀吉により関東の名家に再び養子に出されます。秀康が養子に入った家はどこでしょうか？

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| (1) 宇都宮家
<small>うつのみや</small> | (2) 里見家
<small>さとみ</small> |
| (3) 那須家
<small>なす</small> | (4) 結城家
<small>ゆうき</small> |

解説

秀康が養子となり家督を継いだ結城氏は、鎌倉時代に源 頼朝に仕えて以来、下総の結城地方(茨城県)を本拠地として勢力を広げていた名家の一つです。戦国時代の関東動乱を生き抜いた後、小田原征伐の際に秀吉に臣従し、豊臣大名として生き残ります。当主である結城晴朝は、秀吉や家康公との関係を強固にするために、秀吉の養子となっていた秀康を養子とし、下総における結城の家を存続させます。ところが、関ヶ原の合戦の後、結城秀康は越前に転封となり、しかも秀康は松平に改姓(復姓)したため、結城の家名は消えてしまいました。



結城秀康像(県庁舎前広場／福井県福井市)

解答… (4)

問題46

天正14年(1586)、家康公は五ヶ国支配の本拠地として居城を浜松から駿府に移し、城郭や城下町の整備を進めています。このとき、城郭整備の奉行として駿府城の普請を担当した家臣は誰でしょうか？

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| (1) 茶屋清延
<small>ちや きよのぶ</small> | (2) 藤堂高虎
<small>とうどうたかたから</small> |
| (3) 本多広孝
<small>ひろたか</small> | (4) 松平家忠
<small>いえただ</small> |

解説

秀吉に対し臣下の礼をとった家康公は、甲斐・信濃両国経営の最前線として駿府に居城を移しました。そして板倉勝重を駿府奉行として城郭や城下町建設の推進を担わせたのです。この時、特に城郭については、松平家忠を奉行としてその建設を行わせています。家忠はこれまでも数々の砦や城の普請に携わってきており、家康公も信頼していたのでしょうか。家忠日記には、二ノ丸曲輪や天守、小天守などの普請に携わった記録が残されています。駿府城の天守については、三度建て替えられたとされていますが、最初の日正期には小天守のみが建てられていたようです。

駿府城天守模型
(駿府城東御門と翼櫓内／静岡市)

解答… (4)

問題47

天正14年(1586)、家康公は上洛し、関白 豊臣秀吉に臣従したことで朝廷より新たな官位を授かります。どんな官位だったのでしょうか？

- (1) 六位蔵人 (2) 従五位下 武蔵守
(3) 正三位 中納言 (4) 正一位 太政大臣

解説

秀吉に臣従し上洛した家康公は、豊臣政権下に組み込まれ、朝廷より官位として正三位、官職としては権中納言に叙せられます。このころの豊臣政権では、関白が豊臣秀吉、従二位が織田信雄、従三位は秀吉の実弟 豊臣秀長でした。臣従し、織田信雄に続く、豊臣政権下におけるNo.3の大名となった家康公に対して、全国に惣無事を命じていた秀吉は、戦乱が続く奥州・東国の支配とともに、東国諸大名と豊臣政権との間の取次を任せました。



家康公木像(大樹寺蔵／岡崎市鴨田町)

解答… (3)

問題48

家康公は秀吉政権の下で領国の年貢の収納高を確定するため「五ヶ国総検地」を行いました。この総検地を奉行として取り仕切った家臣は誰でしょうか？

- (1) 伊奈忠次 (2) 大久保忠佐
(3) 高力清長 (4) 山内一豊

解説

家康公の五ヶ国総検地については、その評価が様々ありますが、前年から行われていた太閤検地と比較すると、領主(給人)や寺社領それぞれの耕作地の農民を「名請人」として登録し、年貢を個々に村単位で納めるようにした所が異なる点です。郷村を掌握するという点では太閤検地よりも優れていると考えてよいでしょう。さらに検地帳に石高を記すことはなく、検地目録に従って石高を決定したという点も特筆すべきでしょう。家康公は「七箇条定書」を発し、土地固有の事情などを勘案して年貢を納めさせたのです。そのために検地奉行には伊奈忠次を中心に、今川遺臣や武田遺臣を含め、土地の事情に精通した者たちを任じたのです。



伊奈忠次像(埼玉県加須市)

解答… (1)

問題49

天正18年(1590)、秀吉は天下統一の仕上げとして小田原征伐を行います。小田原城の北条氏の五代当主 氏直に嫁いでいた家康公の次女の名は何でしょうか？

- (1) 朝日姫 (2) 帰蝶
(3) 瀬名 (4) 督姫

解説

天正壬午の乱で北条氏と争った家康公でしたが、その和睦の証として次女の督姫を北条氏直に嫁がせました。北条氏との縁戚関係を持ったことから、秀吉の惣無事令に従うよう何度も説得をしたと伝えられますが、父で先代の北条氏政はそれに応ずることはなく、督姫は離縁されています。その後、小田原開城にあたって、北条父子は切腹をさせられることになりましたが、督姫の嘆願により氏直は高野山に蟄居ということになりました(翌年、死去)。督姫はその後、吉田城主の池田輝政と再婚します。輝政との間には三人の男子を儲けました。



督姫像 部分
(東京国立博物館蔵／台東区)

問題50

天下統一を成し遂げた秀吉は、文禄元年(1592)に「唐入り(中国侵攻)」を掲げて朝鮮半島に出兵しました。秀吉が征服を目指した中国大陆にあった国は何でしょうか？

- (1) 金 (2) 元
(3) 後 漢 (4) 明

解説

秀吉が明国侵攻を目指したのは、一つには領土拡張の野心が挙げられます。明を征服した暁には天皇を北京に遷座などという計画もあったようです。ただ、当時の明は海賊行為を働く倭寇に対応して「海禁政策」(＝領民の海外での活動などを規制する政策)をとっており、閉塞的な状況でした。そこにポルトガルやスペインなどが明の国王に接近し、日本にとって重要な輸入品であった生糸の独占を始めたのです。秀吉による明国出兵は、新たな利権の獲得と、安全保障上の決断だったという側面も考えるべきでしょう。



坤輿万国全図 部分(中国・明時代)

問題51

慶長^{けいちよう}3年(1598)、秀吉が死去すると豊臣政権^ごは五大老筆頭^{たいろうひつとう}の家康公を中心に五大老・五奉行により運営されることとなります。次のなかで五大老でないのは誰でしょうか？

- (1) 石田三成 (2) 上杉景勝
(3) 宇喜多秀家 (4) 前田利家

解説

五大老・五奉行は秀吉の晩年^{ばんねん}に置かれた役職ですが、五大老は秀頼の補佐が主な役目であり、政治に関しては石田三成らの五奉行が携わりました。このようなことから、五大老に選ばれた大名は、秀吉が特に信頼を置いていた勢力の強い大名^{ひつとう}ということになります。その筆頭が家康公であり、前田利家であったのです。特にこの二人については、家康公が政治の責任者として、利家が秀頼^{こうけん}の後見人として位置付けられました。五奉行衆は実務を担当していたのですが、五大老・五奉行の合議制であった故に対立構造が生じてしまったと言えます。



石田三成像(龍潭寺／滋賀県彦根市)

問題52

慶長5年(1600)、豊臣政権下に置ける武断派^{ぶだんは}と文治派^{ぶんち}の対立や家康公と五奉行との関係悪化など様々な要因^{よういん}が重なり、豊臣の家臣同士が東西に分かれて戦う「関ヶ原の合戦^{せきがはら}」が起きました。このとき、東軍^{ひき}を率いる家康公に対し、西軍の名目上の総大将^{めいもくじよう}として大坂城に入った武將は誰でしょうか？

- (1) 石田三成 (2) 黒田如水^{くろだじょすい}
(3) 豊臣秀頼^{ひでより} (4) 毛利輝元^{もうりてるもと}

解説

豊臣家臣の内部対立は、尾張衆^{おわりしゅう}(秀吉が足輕頭のころから育てた家臣)と、近江衆と呼ばれた家臣たち(秀吉が長浜城主になって以降、取り立てられた家臣)との間に根強く存在していたようです。また関白秀次事件も対立の要因として考えられます。秀次と関わりのあった者たちの多くが肅清^{しよくせい}されました。彼らの生き残りや関係者などは、秀吉側近の策謀^{さくぼう}と考えたのでしょうか。そういう様々な要因を考えたとき、文治派と武断派という単純な対立構造がその要因であったと考えるのは早計かもしれません。毛利輝元はそのような複雑な関係から距離を置いた第三者の大老として、石田三成たちの総大将には適役だったと考えられます。



毛利輝元像
(毛利博物館／山口県萩市)

問題53

関ヶ原の合戦に勝利した家康公は、全国の要所に三河以来の譜代家臣を配置します。重臣の井伊直政が、関東の居城から移されたのはどこだったでしょうか？

- (1) 近江佐和山 (2) 遠江井伊谷
(3) 播磨姫路 (4) 大和郡山

解説

関ヶ原の合戦の後、家康公は西軍についた大名を改易・転封・減封し、その領地を譜代家臣や家康公の下に馳せ参じた外様大名に与えました。その配置も絶妙であり、江戸城を守るために関東は譜代で固め、街道筋の要所の地域、例えば小田原や吉田、また姫路には、譜代家臣や家康公に近い外様大名を配置して国内支配の安定を図りました。

井伊直政が拝領した佐和山もその要所のひとつでした。琵琶湖に面したこの地は、畿内と北陸や東海を結ぶ要衝であり、軍事的にも政治的にも重要な拠点であったのです。



佐和山城址碑(滋賀県彦根市)

解答… (1)

問題54

慶長6年(1601)に板倉勝重が任命され、幕末には岡崎藩主の本多忠民も就任した役職で、京都における徳川政権(後に幕府)の統治を担った役職は何でしょうか？

- (1) 大坂城代 (2) 京都所司代
(3) 京都町奉行 (4) 六波羅探題

解説

京都所司代は朝廷の守護や監督、京都市中をはじめ畿内・近国の統治を担った役職です。幕府の職制のうちで席次は老中に次ぐ重職であり、老中に昇進する出世コースでした。岡崎藩主の本多忠民も京都所司代のあとに老中を務めています。17世紀後半には京都町奉行が設置され、京都市中の司法・民政などの権限が移行されました。大坂城代は大坂城の守衛と政務、さらには西国諸大名の監察を担当した役職です。六波羅探題は鎌倉幕府が京都に置いた機関です。

京都所司代跡の碑
(元 待賢小学校前／京都市)

解答… (2)

問題55

家康公は全国統治を進めるため、街道の整備も行いました。慶長6年(1601)には東海道の宿場ごとに伝馬を設置し、後に江戸を中心に五街道を整備します。この五つの街道の起点(スタート地点)となったのはどこでしょうか？

- (1) 上野寛永寺 (2) 江戸城大手門
(3) 品川宿 (4) 日本橋

解説

日本橋は五街道の起点であったと同時に、終点でもあったわけです。街道整備と相まって流通の仕組みも整えられ、江戸には全国から様々な物産が流入するようになりました。終点である日本橋には、現代で例えると大きな商社・百貨店である「大店」が軒を連ね、仲買いや小売りの人々が行き交う町へと変わって行ったのです。日本橋の一部地域は江戸時代には「江戸本町」と呼ばれる、江戸で最初に整備された町でもあり、当時から両替商など金融機関がこの地に集積しました。最初の国立銀行である第一国立銀行は日本橋兜町に設立され、「銀行発祥の地」として知られています。



日本橋と首都高速道路

問題56

次の中で、前問の五街道に入らないのはどこでしょうか？

- (1) 奥州街道 (2) 中山道
(3) 甲州街道 (4) 山陽道

解説

五街道は奥州街道、日光街道、甲州街道、中山道、東海道の五つの街道を指します。山陽道は近世では京都の東寺を起点として整備された街道になります。古代より大和朝廷と九州の太宰府を結ぶ幹線道として最も重要視され、畿内を起点に放射状に延びる七道の最も重要な「大路」として整備されてきました。江戸時代、五街道が整備されると「脇街道」ということになってしまっていますが、その重要性は変わることなく、宿駅や伝馬の制度が整備されました。全部で50の宿場町があり、終点は下関となります。



山陽道矢掛宿本陣(岡山県小田郡矢掛町)

問題57

慶長5～6年(1600～1601)頃には全国的な貨幣として家康公は慶長小判を発行しました。この慶長小判には、小判を発行する金座を管轄した金銀改役の名が刻まれています。それは誰でしょうか？

- | | |
|---|--|
| (1) 大久保長安
<small>ながやす
こん ちん いんすうでん</small> | (2) 後藤光次
<small>ごとうみつぐ
すみのくらしやう い</small> |
| (3) 金地院崇伝 | (4) 角倉了以 |

解説

家康公は出自にとらわれず有能な人物を次々と登用しましたが、金銀改役に登用された後藤庄三郎光次もそのひとりといえるでしょう。後藤光次は、秀吉のもとで天正大判を鑄造した後藤四郎兵衛徳乗の門人かつ養子であったのを、家康公に抜擢されました。江戸幕府の基本通貨である金銀を扱うことから財政にも深く関わり、そのため朱印状の発給や外交交渉にも関与するなど、家康公のもとで数多くの重要な役割を果たしています。光次に始まる後藤庄三郎家は、代々幕府の御金改役を務めていきました。



慶長小判

解答… (2)

問題58

家康公は貨幣制度を確立するにあたり、全国の鉱山開発を推進しました。この鉱山開発で歴史的な増産に成功しただけでなく、交通制度の確立や林業開発など、国づくりの基盤整備に大きな貢献を果たした家臣は誰でしょうか？

- | | |
|-----------|----------|
| (1) 大久保長安 | (2) 後藤光次 |
| (3) 金地院崇伝 | (4) 角倉了以 |

解説

大久保長安は甲斐国の出身で、猿楽師金春七郎の子と伝えられます。後に武田氏の家臣となりましたが、滅亡後は家康公に猿楽師として仕えました。伊奈忠次とともに領内の検地を行ったりしましたが、後に金山や銀山の開発にあたり、佐渡・伊豆・石見などを開発し大きな功績をあげたのです。その功により大久保姓を、慶長元年(1596)には武蔵八王子3万石の大名となったのです。その後は石見銀山や佐渡金山、伊豆銀山の奉行を兼任、さらに全国の鉱山を管轄する一方で東海道や中山道などに一里塚を設置するなどの功績を残しました。

大久保長安像
(大安寺／新潟県佐渡市)

解答… (1)

問題59

前問の家臣は石見守^{いわみのかみ}を名乗^なりましたが、石見国^い（島根県西部）ではある鉱物^{さいくつ}が大量に採掘^{さいくつ}されました。貨幣制度の確立に欠かせないその鉱物とは何でしょうか？

- (1) 金 (2) 銀
(3) 銅 (4) 鉛

解説

石見銀山は島根県にあった鉱山で別称大森銀山とも呼ばれています。16世紀の中ごろ、朝鮮から伝わった灰吹き法という銀精錬法を取り入れて、日本銀の代表的な産地となりました。石見銀山で生産された銀はヨーロッパ商人の手を経て、中国にもたらされ、基本通貨として流通したのです。世界の銀の3分の1から4分の1を占めたと考えられており、日本は当時世界最大の銀生産国の一つでした。家康公は大久保長安に命じ、これらの銀を江戸まで運ばせて「丁銀」^{ちやうぎん}（主に商取引用の銀貨）として流通させたのです。



石見銀山跡（島根県大田市）

問題60

慶長8年(1603)、家康公は第107代 後陽成天皇^{ごようせい}より將軍宣下^{しやうぐんせんげ}を受けます。この宣下を受けた場所はどこだったのでしょうか？

- (1) 江戸城^{えどじやう} (2) 岡崎城^{おさきじやう}
(3) 二条城^{ふし} (4) 伏見城^{ふし}

解説

伏見城は豊臣秀吉と家康公にとって、京都と大坂をつなぐ要衝の地に築かれた重要な城でした。最初は秀吉が築城し「指月伏見城」と呼ばれました。もともと、秀頼が生まれてから大坂城を譲る目的で、自分の隠居屋敷として建造したものを、文禄の役^{ぶんろく}の最中に本格的な城として再建を行ったものです。秀吉は各国の大名たちの屋敷も城下に構えさせ、政権中枢の城として整備を進めました。しかし慶長元年の大地震で建物の多くが倒壊、「木幡山伏見城」に移設再建し、完成の後に亡くなったのです。その後に家康公が入城し政務を執ったのですが、関ヶ原の合戦の前哨戦である伏見城の戦いで多くの部分が炎上、再び築城しなおしたのです。將軍宣下はこの三代目の伏見城で行われました。



伏見城の遺構である豊国神社唐門（京都市）

問題61

征夷大將軍せいゐ たいしやうぐんとなった家康公でしたが、わずか2年で將軍ぐんの座ざを譲ゆずります。第二代の將軍となったのは誰でしょうか？

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| (1) 長男 <small>のぶやす</small> 信康 | (2) 次男 <small>ひでやす</small> 秀康 |
| (3) 三男 <small>ひでただ</small> 秀忠 | (4) 四男 <small>ただよし</small> 忠吉 |

解説

慶長10年(1605)正月、家康公は江戸から伏見城へ入りました。これは將軍職を嫡男の秀忠に譲るための準備でした。3月には秀忠も関東・東北の武士たち16万を伴って伏見城へ入ります。そして4月には、家康公は將軍職辞任と後任に秀忠の推挙すいきよを朝廷に奏上そうじやう、秀忠は第二代將軍に任じられました。將軍職を徳川家が世襲せしゆすることを天下に示したのです。これにより家康公は隠居して大御所と呼ばれるようになり、江戸の將軍家との二元政治体制になります。秀忠は主ちよつかつりやうに徳川家直轄領および譜代大名を統治し、家康公は外様大名との折衝せつしやうを担当するようになったのです。



徳川秀忠画像(松平西福寺蔵／台東区)

解答… (3)

問題62

將軍職を譲った家康公は、前將軍さきのしやうぐんとして何と呼ばれたでしょうか？

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| (1) 大御所 <small>おお ごしよ</small> | (2) 黄門 <small>こうもん</small> |
| (3) 権現 <small>ごんげん</small> | (4) 太閤 <small>たいこう</small> |

解説

大御所というのは、もともとは隠居した皇族などが居住する場のことを表していたものです。家康公は將軍職を秀忠に譲ってから、当初は江戸城西ノ丸に居住していましたが、慶長12年(1607)には駿府に移り住みました。駿府では城の普請と同時に城下町建設も行われ、江戸と並んで日本の首都たる町づくりも行われたのです。大御所となった家康公は、政策の分野で多くのブレーンを置き、専門家たちの提言に耳を傾けながら新しい国の形をつくっていきました。江戸の將軍家は大御所家康の意向に従い、実務を実行していったのです。



旧江戸城西ノ丸(現皇居／千代田区)

解答… (1)

問題63

慶長12年(1607)、駿府城に移った家康公ですが、その後も多彩なブレーンを駿府に集め実質的な政權運営を続けました。その中枢を担った駿府奉行衆の筆頭は誰でしょうか？

- (1) 板倉勝重 (2) 大久保忠隣
(3) 本多正純 (4) 松平信綱

解説

大御所政治の仕組については、テキスト(P 45)を参照していただきたいと思います。その中枢を担っていた駿府奉行衆は、徳川譜代のいわゆる第二世代でした。本多正純は家康公の右腕であった本多正信の長男です。父に従い、徳川政権のブレーンとしての仕事を行い、大御所政治の中核を担うようになりました。外国との生糸の取引で、その独占を防いだ「糸割符制度」なども、板倉勝重との連署で書面上に名前が見えます。家康公亡き後は、宇都宮15万石と大禄を食みますが、秀忠やその側近たちに疎まれ、突然の改易により出羽国に蟄居謹慎、73歳で生涯を終えました。



本多正純と嫡男 正勝の墓(秋田県横手市)

問題64

家康公の外交政策として正しいのはどれでしょうか？

- (1) 朝鮮に回答兼刷還使を派遣し、朝鮮との国交が回復した。
(2) キリシタン大名として有名な高山右近をルソンに追放した。
(3) 全国の大名に、アイヌとの自由な貿易を許可した。
(4) 島津氏が琉球に攻め入ることに反対した。

解説

回答兼刷還使は、家康公の国書への回答と、秀吉の朝鮮出兵の際に日本に連行された朝鮮人捕虜や工人たちを帰国させるため、朝鮮から日本に派遣された使節です。この使節の派遣により、日本と朝鮮の国交が回復しました。

また家康公は、慶長9年(1604)松前氏に対して、アイヌとの交易独占権を認める黒印状を与えています。その一方で家康公は、島津氏が琉球へ侵攻することを認めました。これにより琉球は、江戸時代を通じて中国と冊封関係にある国でありながら、薩摩の支配を受ける両属の状態に置かれました。家康公の外交は、秀吉との対比で平和的な面が強調されがちですが、こうした側面があることも覚えておくべき事実でしょう。



高槻カトリック教会「高山右近記念聖堂」
(大阪府高槻市)

問題65

家康公の外交顧問となったウィリアム・アダムスは、三浦半島(神奈川県)に知行地を与えられ、三浦按針と名乗りました。この「按針」は彼の職業にちなんだ名前ですが、その職業とは何でしょうか？

- (1) 鋤夫 (2) 宣教師
(3) 天文学者 (4) 水先案内人

解説

ウィリアム・アダムスはヤン・ヨーステンとともに家康公の外交顧問として仕え、水先案内人を意味する「按針」を名乗りました。慶長5年(1600)豊後沖に漂着したアダムスらは、大坂に行き家康公に謁見し、三浦郡逸見(神奈川県横須賀市)に250石の知行が与えられました。スペイン・ポルトガルと海外貿易で対立するイギリス人のアダムスが重用された意味は大きく、イギリスそしてオランダが日本の貿易相手となっていききっかけの一つになったといえるでしょう。なお、アダムスらが乗っていたリーフデ号は、豊後国(大分県)沖で座礁しましたが、その船の船尾に取り付けられていたエラスムス立像が龍江院(栃木県佐野市)に伝わっています。



三浦按針像
(長崎県平戸市)

問題66

ウィリアム・アダムス同様、家康公の外交顧問に任じられたヤン・ヨーステンの名前に由来し、現在も東京に残る地名は何でしょうか？

- (1) 八重洲 (2) 有楽町
(3) 四谷 (4) 代々木

解説

東京には、家康公や家臣に由来をもつ地名が数多く残っています。ヤン・ヨーステンはウィリアム・アダムスとともに豊後沖に漂着し、家康公に取り立てられました。その際、耶楊子(やようす)の名を賜り、江戸城内堀沿い(千代田区)に屋敷を与えられました。のち、その地は八重洲と名付けられ、東京駅南口の名として現在でも馴染みのある地名となっています。

なお有楽町の地名は、有楽斎と号した織田信長の弟、長益の屋敷があったことに由来するとされます。



ヤン・ヨーステン記念像
(東京駅八重洲地下街)

問題67

豊臣秀頼は慶長17年(1612)、父 秀吉の意思を継いで「京の大仏」及び「大仏殿」を再建、2年後には梵鐘を铸造しましたが、その鐘に記された銘文が問題となり、豊臣家と徳川家の関係が悪化します。この大仏が再興され鐘銘事件を引き起こす梵鐘が造られたのは何という寺社でしょうか？

- (1) 高台寺 (2) 知恩院
(3) 方広寺 (4) 豊国神社

解説

方広寺は豊臣秀吉が天正14年(1586)に大仏を安置して建立した天台宗の寺です。その後、地震や火災で崩壊した大仏殿などを秀頼が再建、慶長19年(1614)にできたのです。秀頼は片桐且元を駿府に派遣し、大仏の開眼供養の日程などについて家康公に了承を得つつ準備を進めていました。ところが、方広寺の鐘に記された銘文に「関東不吉之語」があるとし、供養の延期を命じられたのです。問題となった部分は「国家安康」「君臣豊楽」の文字で、徳川家を呪い、豊臣家の繁栄を祝う内容と解釈されました。このことが大坂の陣の引き金になってしまいました。



方広寺梵鐘(京都市)

問題68

前問の鐘銘問題に対し、豊臣家が弁明のため、駿府の家康公の許まで派遣した家老は誰でしょうか？

- (1) 大野治房 (2) 織田長益
(3) 片桐且元 (4) 直江兼統

解説

片桐且元は若いときから小姓として豊臣秀吉に仕え、天正11年(1583)の賤ヶ岳の戦いで活躍、「七本槍」の一人として1万石を与えられました。秀吉没後は秀頼の後見となり、関ヶ原の戦い後には秀頼の罪なきことを訴え、終始、豊臣家のために尽力しました。しかし慶長19年(1614)、方広寺鐘銘事件をきっかけに淀君らと不和になり、大坂城を退いて居城の茨木城に帰ってしまいます。身の危険を感じてのことだったとも伝えられています。そしてその年に起きた大坂冬の陣には徳川方として参陣、翌年の夏の陣では、大坂城落城に際して淀君と秀頼の助命を家康公に懇願しましたが、結局聞き入れられませんでした。



旧茨木城搦手門(片桐且元居城／大阪府茨木市)

問題69

慶長19年(1614)、ついに徳川幕府と豊臣秀頼との大坂城をめぐる戦い「大坂冬の陣」が始まりました。大坂方が城の周りに構えたいくつもの砦はすべて徳川軍が勝利し占領しますが、城の南に造られた出丸を攻めた戦いだけは徳川軍が大敗しています。この出丸を築き徳川軍を撃退した武将は誰でしょうか？

- (1) 明石掃部 (2) 後藤基次
(3) 真田信繁(幸村) (4) 長宗我部盛親

解説

別称「真田丸」とも呼ばれています。2016年のNHK大河ドラマのタイトルにもなりました。真田信繁が大坂城の弱点と考えられる位置に、特に構えた砦のことを指します。現在は真田山公園の一角に砦の様子が復元されていますが、古い図面の分析からこの位置ではなかったと考えられています。その規模は大きく、砦の前面に掘られた深い堀に徳川の兵(井伊隊など)の多くが落ちて集中攻撃を受けたと記録されています。大坂冬の陣で唯一徳川を苦しめた砦と武将ということで、真田丸での真田信繁(幸村)の活躍は後世に語り継がれることになりました。



「真田丸の戦い」大坂冬の陣図屏風部分(大阪城天守閣蔵/大阪市)

問題70

一旦、講和となったものの慶長20年(1615)に再戦、「大坂夏の陣」が始まり豊臣家は滅亡します。秀頼に嫁いでいて救出された家康公の孫娘は誰でしょうか？

- (1) 湖衣姫 (2) 千姫
(3) 珠姫 (4) 濃姫

解説

千姫は二代将軍秀忠の長女です。慶長8年(1603)、7歳で大坂城の豊臣秀頼に嫁ぎ、生前の秀吉が願っていた豊臣家と徳川家の縁を結んだのでした。家康公が幕府を開くにあたり、豊臣氏との関係を良好な状態にするため、秀吉との約束を守ったということでしょう。元和元年(1615)、大坂夏の陣で豊臣氏が滅んでからは関東に帰り、本多忠政の長子 忠刻と再婚します。忠刻との間に生れた娘は池田光政の妻となりました。寛永3年(1626)、忠刻の死後は尼となり天樹院と称します。寛文6年(1666)70歳で死去。曾祖母於大の菩提寺である伝通院に葬られました。



千姫画像(弘経寺/茨城県常総市)

問題71

慶長20年(1615)秋に元号が「元和」に改まりました。家康公は二度と争いの生じない武家社会を目指し二つの代表的な法度を制定します。「武家諸法度」と「禁中並公家諸法度」です。これらの文案をつくった家康公のブレンは誰でしょうか？

- (1) 金地院崇伝 (2) 南光坊天海
(3) 林 羅山 (4) 本多正純

解説

この二つの法度は武家や公家の守るべき義務を定めたもので、將軍 秀忠のいた伏見城に諸大名を集め金地院崇伝に朗読させ公布しました。武家諸法度は「文武弓馬の道もっぱら相嗜むべき事」をはじめとして、品行を正し、科人を隠さず、反逆者・殺害人の追放を定めるなど、武家のあるべき姿を追求した内容が軸となっています。また禁中並公家諸法度は、古来より伝わる有職故実や国史の研究を行うことなど朝廷や公家の嗜むべきことを明らかにしたことで、政治への関与を無くす狙いがありました。現代の制度に通ずるものがありますね。



金地院東照宮(京都市)

家康公の遺言により、寛永5年(1628)に南禅寺塔頭の金地院境内に造営された金地院東照宮。以心崇伝は金地院に住していたことから、金地院崇伝と呼ばれました。

解答… (1)

問題72

天正18年(1590)、家康公が江戸入りをを行った日が、後に幕府の祝賀行事の日とされました。何月何日のことだったのでしょうか？

- (1) 7月1日 (2) 8月1日
(3) 9月1日 (4) 10月1日

解説

江戸城で行われた「八朔の儀式」の意味は、家康公の江戸御打ち入りの日が8月1日(八月朔日)だったからです。江戸の民衆もこの日より平和な社会が到来したということで、各所各地で「八朔」を祝う催しが行われました。とは言え、松平家忠の日記によれば、実際の江戸入城は7月18日となっています。秀吉による小田原征伐後の関東諸大名の領国画定作業「宇都宮仕置」が8月1日に完了していることから、豊臣政権による新しい徳川氏の領国画定の日である8月1日が、家康公の正式な江戸入城日とされるようになったのではないかと考えられています。

江戸打ち入りの頃の江戸城
(想像図・東京駅案内板より)

解答… (2)

問題73

家康公の関東移封の際、秀吉から与えられていない関東の国はどこでしょうか？

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| (1) 安房国
<small>あわのくに</small> | (2) 上総国
<small>かずさのくに</small> |
| (3) 上野国
<small>こうぜのくに</small> | (4) 武蔵国
<small>むさしのくに</small> |

解説

安房国は千葉県房総半島の南部にあった地域です。里見氏が館山城を拠点に支配していました。里見氏はもともと安房・上総二ヶ国を領有していましたが、小田原参陣の遅れを咎められ、上総国は没収されて徳川氏の領国となったのです。家康公はこの上総国に重臣の本多忠勝や大須賀忠政を配し、里見氏の抑えとしました。里見氏はこの後、家康公に従い関ヶ原の合戦後は加増されますが、大久保長安事件に連座させられ、伯耆国(鳥取県)倉吉に3万石で減封されました。江戸時代後期、滝沢馬琴による「南総里見八犬伝」で一躍有名になりますが、実在の里見氏とは全く関係はありません。



安房国館山城(千葉県館山市)

解答… (1)

問題74

家康公の関東移封時に関東総奉行に任じられた、三河以来の武功派の重臣は誰でしょうか？

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 大久保忠世
<small>おおく ほただよ</small> | (2) 酒井忠次
<small>さかい ただつぐ</small> |
| (3) 榊原康政
<small>さかきばら やすまさ</small> | (4) 本多忠勝
<small>ほんだ ただかつ</small> |

解説

家康公の関東移封にあたっては、三河譜代の家臣たちからは根強い反対もあったようです。彼らの先祖からの本貫地には地縁の者も多く、家忠日記には忍(埼玉県行田市)に移ってからも、三河の地元の人たちが家忠を頼って訪れてきている様子が記されています。後に、家康公が天下の平定を成し遂げた際にも、深溝松平忠利(家忠の子)は、加増を断って1万石で故郷の深溝(額田郡幸田町)に戻ったと伝えられます。榊原康政はそのような三河譜代の関東移封反対派のリーダーだったのでしょう。康政を関東総奉行の地位に就けることで、他の譜代家臣の説得に役立てたのではと思われます。



榊原康政所用具足
(東京国立博物館/台東区)

解答… (3)

問題75

家康公の関東移封時に家臣団の石高を策定するために活躍した、三河国西尾出身の代官頭は誰でしょうか？

- (1) 天野康景 (2) 伊奈忠次
(3) 大久保長安 (4) 彦坂元正

解説

代官頭 伊奈備前守忠次の検地は天正18年(1590)伊豆国の総検地が最初でした。その後、武蔵国、相模国、遠江国、駿河国、尾張国総検地と続きます。忠次の検地仕法は、一郷一寺以外の除地を認めず、例外なく「竿打ち＝測定」を行ったということでしょう。他の代官頭たち(大久保長安、彦坂元正ら)の仕法に比べて、竿の長さ(一間=1.82m)や検地目録などでも特に大きな違いはありませんが、他の仕法が途絶えたのに対して伊奈流は幕府の基本的な地方仕法(検地の仕方)として続き、また尾張藩に「備前守検地方式」が伝わったのをはじめ、全国諸藩にもその伊奈流の検地仕法が用いられました。



伊奈忠次像(茨城県水戸市)

解答… (2)

問題76

関東移封に伴う家臣団の石高について、特に秀吉の指示で10万石以上を与えられた家臣が三人いました。それは、本多忠勝、榊原康政ともう一人は誰だったのでしょうか？

- (1) 井伊直政 (2) 酒井忠次
(3) 鳥居元忠 (4) 本多正信

解説

関東移封時における徳川家臣団の石高について、特に本多忠勝、榊原康政、井伊直政の三人については、秀吉の強い意向が働いていたとされています。彼らは家康公が秀吉に臣下の礼をとった際、特に望まれて秀吉に謁見し、官位を与えられたのです。これは家康公の家臣でありながら、関白秀吉の家臣でもあるという「朝臣としての支配」を行ったということであり、大名格の位階でもあったことから10万石以上の石高を命じたのでしょう。井伊直政はその中でも特に12万石を与えられており、徳川家の中では筆頭の立場になったと考えられます。



井伊直政木像(龍潭寺／浜松市)

解答… (1)

問題77

江戸入りした家康公が、江戸の地でまず手がけたことはどのようなことだったのでしょうか？

- (1) 豊臣秀頼の大坂城を凌ぐ広大な江戸城の造営
- (2) 各国の大名たちを江戸に住まわせるための大名屋敷の建設
- (3) 町割、知行割と江戸城への物資供給体制づくり
- (4) 平和な時代の武士の在り方を学ぶための出版事業

解説

家康公が江戸に入った当時は、江戸城の規模も小さく、目前まで入江が迫る漁村としての風景が広がっていたと伝えられています。家臣たちはまず城の修築からと進言したようですが、家康公は江戸への物資供給体制を整えることや、城の掘割とそれに伴う町割りから取りかかったのです。江戸の町づくりはこのような、全く下地のないところから始められました。まず手がけたのは江戸湾に注ぐ平川の河口と江戸城を結ぶ「道三堀」の開削です。そして掘った土で埋め立てを行い武家町や町人町ができあがったのです。江戸のまちづくり事はじめですね。



江戸の町並み（江戸東京博物館／墨田区）

問題78

江戸城の「一の蔵地」とも「蔵の御門」とも呼ばれた和田倉門が最終地点となった、江戸湾と江戸城をつなぐ堀は何と呼ばれたのでしょうか？

- (1) 江戸堀
- (2) 道灌堀
- (3) 道三堀
- (4) 備前堀

解説

前問の解説で述べた「道三堀」ですが、この名称は堀端に居住していた幕府の侍医「曲直瀬道三」から付けられたものです。平川の河口と江戸城を結んだ堀でしたが、堀の終点は江戸城和田倉門跡と考えられており、ここには蔵米を保管する蔵が建てられたことから「一の蔵地」とか「蔵の御門」などと呼ばれたのです。江戸城の付近はそのころは江戸湾の入江が広がっていたので、堀を掘った土で埋め立てを行い、武士や町人が居住する新たな町ができ上がっていききました。現在の本町通り一帯が考えられますが、周辺には特に海運業者や木材商が軒を並べたのです。



道三堀古地図

問題79

生活必需品である塩の産地の行徳(千葉県市川市)から江戸まで、塩を運搬するために開削された運河(堀)はどれでしょうか？

- (1) 江戸川堀 (2) 小名木川堀
(3) 行徳堀 (4) 中川堀

解説

江戸への物資供給体制を整えていく事業で、最も早く行わなければならなかったことが、飲料水の確保と塩の供給です。特に塩の供給に関しては、生産地である下総国の行徳から運搬する必要がありました。そこで、行徳から道三堀入り口(＝隅田川河口)まで直線で結ぶ運河を掘削したのです。これが小名木川堀です。当然堀沿いの海は埋め立てられ、江戸の町も次第に拡張していきました。小名木川堀は現在でも整備された河川として、東京の下町を流れ、船も通行しています。江戸の海運大動脈ができたのです。



小名木川(江東区)

問題80

江戸の人々の飲料水(上水)を確保するために井の頭湧水地から通された初期の上水を何と呼ぶでしょうか？

- (1) 江戸上水 (2) 神田上水
(3) 平川上水 (4) 武蔵野上水

解説

江戸時代に設けられた飲み水を供給する上水道は、神田上水、玉川上水、本所上水(亀有上水)、青山上水、三田上水(三田用水)、千川上水の六つが存在していました。その中で最も古いのが神田上水です。古くから玉川上水とともに、二大上水とされました。もともと武蔵野台地の突端に位置した江戸は平地に乏しく、海岸の埋め立てによって住居地を拡張していったのですが、井戸の水は海水が混じるもので飲料水としては使えませんでした。そこで早くから上流にある井の頭湧水地に着目し、そこから江戸市中まで導水したのです。これが神田上水の始まりです。



神田上水跡(小石川後楽園／文京区)

問題81

家康公が江戸入りで入城した江戸城は、長禄元年(1457)に建てられた小さな城で荒廃が進んでいたと伝えられます。約130年前にこの江戸城を築城した武将は誰だったのでしょうか？

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| (1) 足利基氏
<small>あしかがもとうじ</small> | (2) 太田道灌
<small>どうかん</small> |
| (3) 平将門
<small>たいらの まさかど</small> | (4) 北条早雲
<small>ほうじょうそう'un</small> |

解説

家康公が江戸城を築いたところに描かれた「江戸始図」(松江歴史館所蔵)から、太田道灌が築いた江戸城の大きさや形が見えてきます。家康公はもともとの江戸城の形を利用し、防御性を高めた「複合馬出し」、「連続した櫓形」などを構築しました、天守は二つの小天守を伴う「連立式」で、高さ日本一を誇る(55m)大天守を築いています(慶長度天守)。これらの部分がもともとの江戸城全体の大きさであったと考えられますが、そこに西ノ丸を加え、さらに内堀から外堀を「の」の字のように広げていきながら、5倍以上の広さに拡大していったのです。



太田道灌像(東京国際フォーラム／千代田区)

問題82

慶長8年(1603)、武家の棟梁である征夷大將軍に任じられた家康公は、江戸に幕府を開き江戸城の拡張に着手します。その際に家康公は全国の諸大名に工事に携わるよう命じました。このことを何というのでしょうか？

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 江戸普請
<small>ふしん</small> | (2) 將軍普請
<small>てん か ぶしん</small> |
| (3) 総掛普請
<small>そうがかり ぶしん</small> | (4) 天下普請
<small>てん か ぶしん</small> |

解説

幕府が全国の諸大名に命じて行わせた、城の建設工事や道路・河川補修などの工事を天下普請と呼んでいます。豊臣政権のころは「手伝普請」とも呼ばれていました。家康公が関東移封時に命令した手伝普請では、1000石につき1人の動員がかけられ「千石夫」などとも呼ばれたのです。幕府が開かれた後は、その權威を示す意味もあり多くの城郭建築で天下普請が行われました。江戸城をはじめ、名古屋城、大坂城、彦根城、駿府城、二条城などが有名ですが、高田城、膳所城、福井城、伊賀上野城、美濃加納城なども天下普請で築城されました。



江戸城清水門(千代田区)

問題83

振袖火事、丸山火事とも呼ばれる、日本史上最大の江戸の大火を何というのでしょうか？

- (1) 寛永の大火 (2) 寛政の大火
(3) 天明の大火 (4) 明暦の大火

解説

江戸の町のおよそ6割を焼失し、焼死者が10万人を超えたとも伝わる「明暦の大火」ですが、「丸山火事」「振袖火事」などとも呼ばれています。この大火の火元が本郷丸山の本妙寺だったということから「丸山火事」と呼ばれます。また、その原因が、不幸な亡くなり方をした幾人かの娘たちが着用していた振袖を、寺で供養するために燃やしたところ、折からの北風に煽られて本堂に引火したとされており、「振袖火事」とも呼ばれたのです。ただ、本当は本妙寺に隣接する老中阿部忠秋の屋敷から出火したとの説もあり、真実は明らかにされていません。



明暦の大火供養塔(本妙寺／豊島区)

問題84

前問の大火の際、四代将軍家綱の下で陣頭指揮を執り、民衆を救うことを第一に優先させた幕閣の最高実力者は誰でしょうか？

- (1) 阿部正弘 (2) 田沼意次
(3) 土井利勝 (4) 保科正之

解説

保科正之は会津藩初代藩主で、二代将軍秀忠のご落胤とされています。四代将軍家綱を補佐し、幕閣の中心的存在でした。明暦の大火に際しては、被災者救援に力を尽くします。1日1000俵の粥の炊き出しを江戸の6カ所で7日間行い、さらに延長しました。同時に、家を焼け出された町民に救助金として16万両を支給することにしたのです。幕府重臣たちからは「それではご金蔵が空になってしまいます」と反対する声も上がりましたが、正之は「幕府の備蓄金はこういう時に使ってこそもの。いま使わなければ、貯蓄がないのと同じことであろう」と一喝したと伝わります。



保科正之像
(高遠歴史博物館／長野県伊那市)

問題85

防災に強い江戸のまちづくりに向け、火事による延焼えんしょうを防ぐために行われたことは何でしょうか？

- (1) 江戸城や幕府の建物の周囲には土塁どるいをめぐらし、火が通らないようにした。
- (2) 商家や武家屋敷の屋根に「うだつ」と呼ばれる防火壁ぼうかへきを設置した。
- (3) 江戸の市中を走る堀や運河を広く拡張かくふくし、対岸まで火が届かないようにした。
- (4) いくつかの大名屋敷や寺社を郊外に移転こうがいし、火除地ひよけちや広小路ひろこうじなどを設けた。

解説

明暦の大火は「防災を考えた町づくり」を促進させました。主要道路の道幅を拡げるとともに、各地に火除けのための空き地や広小路を作りました。今も地名に残る上野広小路は、この時に作られたものです。また、神田川を拡げるとともに、江戸城内にあった徳川御三家の屋敷を城外に出し、江戸城周辺にあった大名・旗本屋敷をその外側に移転させました。これにはいざというときの避難所にする目的もあったようです。さらに、寺社も江戸の郊外に移転させました。これによって江戸の市街地は拡大し、その後の江戸発展の基礎を作ったのです。(江戸東京博物館／墨田区)



火除地

解答… (4)

問題86

江戸の町を拡張するため国境を流れる隅田川くもたがわに両国橋りょうごくばしが架けられました。江戸は武蔵国むさしのくにですが、隅田川の東は何という国でしょうか？

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| (1) 上総国 <small>かずさのくに</small> | (2) 下総国 <small>しもうさのくに</small> |
| (3) 下野国 <small>しもつけのくに</small> | (4) 常陸国 <small>ひたちのくに</small> |

解説

隅田川に初めてかけられた橋がこの両国橋です。明暦の大火(1657年)をきっかけに、万治2年(1659)に橋ができました。位置は現在よりも少し下流であったようです。当初は大橋と呼ばれていましたが、隅田川が武蔵国と下総国の境であったため、二州橋とも言われました。のちに武蔵、下総両国に架かることから、両国橋と正式に改められたのです。橋の両側に火除地として広小路が設けられ、江戸随一の盛り場として賑わいました。夏の間の三ヶ月間にわたる納涼期間中は両国花火が打ち上げられ、江戸庶民を魅了にじまへした様子が錦絵にも描かれています。



葛飾北斎「富嶽三十六景 両国橋」

解答… (2)

問題87

寛永12年(1635)、大名の参勤交代が制度化されることにより江戸に大名屋敷が多く建設されました。特に大名の世嗣(跡継ぎ)、隠居した藩主やその未亡人が居住していたとされる大名屋敷の種類は何か？

- | | |
|---------|---------|
| (1) 上屋敷 | (2) 中屋敷 |
| (3) 下屋敷 | (4) 町屋敷 |

解説

大名屋敷はその立派な構えと社交のための庭園、広大な敷地を有することで江戸の美しい顔でもありました。大名たちは幕府から与えられた「拝領屋敷」を含め、各藩が上屋敷、中屋敷、下屋敷を持ち、その数は1000邸を超えたと伝わります。上屋敷は江戸城に近い位置に建てられ、藩主や側近が居住していました。中屋敷は問題文にあるように、藩主の妻や世継の子、上級家臣たちが居住、下屋敷はお供の下級家臣たちが居住していました。明治維新後は多くが取り壊されたり、役人や商人たちに下げ渡されたりしましたが、いくつかの庭園などは現在でも公園などに活用されています。



肥前島原藩松平家 中屋敷跡
(慶応義塾図書館旧館／港区)

問題88

大名屋敷は大名間の社交の場としても利用され、そのために広大な敷地や立派な庭園が造成されました。明治以降に明治神宮となったのは何家の屋敷跡でしょうか？

- | | |
|---------|-----------|
| (1) 井伊家 | (2) 尾張徳川家 |
| (3) 内藤家 | (4) 毛利家 |

解説

有名な大名屋敷跡について、いくつか列挙してみましょう。問題文の明治神宮は彦根藩井伊家の下屋敷跡です。およそ70ヘクタール以上の広さがあるとされています。尾張藩徳川家上屋敷は防衛庁、紀州藩徳川家上屋敷は赤坂御用地と迎賓館、水戸藩徳川家上屋敷は小石川後樂園、東京ドーム、遊園地などに利用されています。また東京大学の本郷キャンパスは「赤門」で有名な加賀藩前田家の上屋敷跡にあります。興味深いものとして、島原藩松平家中屋敷は慶應義塾大学に利用されています。岡崎藩本多家の上屋敷門は、現在、赤坂の山脇学園に移築されており、国重要文化財となっています。



明治神宮(渋谷区)

問題89

関東の国づくりの基本となったのは、乱流する大河 利根川の治水です。家康公の命を受けた代官頭は、この利根川をどのようにして治水したのでしょうか？

- (1) 各所で水をせき止め、洪水の江戸への流入を防いだ。
- (2) 江戸湾に注いでいた流れを、太平洋に注ぐよう流路を変えた。
- (3) 江戸の地下を抜けて海に流れ出るよう、巨大なトンネルを掘った。
- (4) 江戸湾まで続く長大な堤防を造成した。

解説

もともと江戸湾に流入していた利根川は、武蔵国北部では細かく乱流し、綾瀬川や荒川とも合流したり分流をしたりしていました。洪水ごとに流路を変え、災害を巻き起こすという状況だったのです。そこで家康公や側近たちが考えだした大規模工事が「利根川東遷事業」です。江戸湾に流れる利根川を銚子を河口とする位置に付け替えるという事業です。初めは代官頭であった伊奈忠次によって、利根川の流路を東寄りに変える工事が行われました。この事業は長男の忠政に、忠政亡き後は次男の忠治へと引き継がれ、承応3年(1654)、60年の歳月を費やして遂に完成したのです。



利根川河口付近
(千葉県香取郡東庄町)

解答… (2)

問題90

本多忠勝は上総国大多喜に10万石で入封されましたが、これは秀吉の惣無事令に従わなかった安房国の大名に備えるためでした。この大名は誰でしょうか？

- | | |
|----------|---------|
| (1) 宇都宮氏 | (2) 佐竹氏 |
| (3) 里見氏 | (4) 伊達氏 |

解説

安房・上総二ヶ国を領有していた里見氏は、最終的には秀吉の惣無事令には従ったのですが、小田原参陣の遅れを咎められ、領地であった上総国を没収されたのです。その上総国に置かれたのが本多忠勝(大多喜)と大須賀忠政(久留里)でした。大多喜に10万石で入封された忠勝は、城郭と城下町整備を熱心に行いました。三層四階の天守をはじめ(非存在説あり)、城域を拡張して里見氏の北上に備えました。また大多喜街道を通し、商家を誘致して、後に「房総の小江戸」と呼ばれるほどの賑わいのある城下町を建設したのです。現在でも古い町並みが残されており、町を挙げて本多忠勝を顕彰しています。



里見氏旧跡碑(延命寺／南房総市)

解答… (3)

問題91

こうずけのくにたてばやし
上野国館林に10万石で入封された榊原康政は、城下町を南北に貫く館林道を完成させることで、館林城を北関東の守りの要の城としました。この館林道は一般的には何と呼ばれたのでしょうか？

- (1) 会津街道 (2) 奥州脇往還
(3) 日光脇往還 (4) 水戸街道

解説

館林は利根川と渡良瀬川に挟まれた低地に広がる地域です。榊原康政は二つの河川の築堤工事を総延長54kmにわたって行い、洪水による氾濫を防ぎました。その上で、沼に囲まれた城郭の整備を行い、城の北側には武家町を、西側には町人町を造成しました。そしてその全体を土塁で囲む惣構えの城郭都市を形成したのです。町人町には東西に1本、そして南北に1本の幹線道路を通しました。この南北の道が「日光脇往還」としての役割を果たしたのです。脇往還というのはいわばバイパス道路のようなものですが、この往還道は江戸に直結しており、江戸を守る拠点としての意味合いもあったのではないかと考えられます。



たかひしまち ぶようかん
鷹匠町武家屋敷「武鷹館」(群馬県館林市)

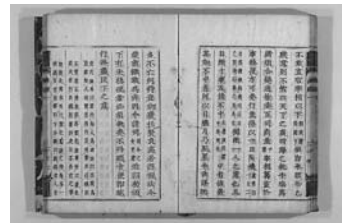
問題92

じゅうがくしや ふじわらせい か く じょうがんせい
家康公は儒学者の藤原惺窩から繰り返し「貞観政要」の講義を聞き治世を学びました。この書は優れた王(君主)であった中国のある人物の言葉や行動をまとめたもので、帝王学の教科書とも言われます。さて、誰の言行録でしょうか？

- (1) 後漢の光武帝 (2) 蜀の劉備玄德
(3) 秦の始皇帝 (4) 唐の太宗

解説

家康公の様々な戒めや教えはその晩年に集約されています。質素儉約の励行や、臣下の諫言に耳を傾ける姿勢など、その多くは「貞観政要」から得た教訓ではないかと思われます。唐の太宗の時代、貞観の治という平和でよく治まった時代をもたらした政治の要諦が語られている書で、太宗とそれを補佐した臣下たち(魏徵・房玄齡らの重臣たち45名)との政治問答を通して、リーダーとしての在り方を示したものでした。そこには役人たちが「分相応」の暮らしをすることや、「万民の安寧」のために誠意をもって政治を行うなど、家康公の政治哲学のキーワードが幾度も出てきます。



「貞観政要」慶長古活字版
(円光寺／京都市)

問題93

平和な時代への移行に向け、家康公は「伏見版」「駿河版」と呼ばれる出版事業に積極的に取り組み、これまで見ることもさへ困難だった学問や知識を一般に公開しました。京・伏見での家康公の出版事業の中核を担った人物は誰でしょうか？

- | | |
|---------------------------------------|--|
| (1) 閑室元佶
<small>かんしつげんきつ</small> | (2) 金地院崇伝
<small>こんち いんすうでん</small> |
| (3) 西笑承兌
<small>さいしょうじょうたい</small> | (4) 林 羅 山
<small>はやし らざん</small> |

解説

慶長4～11年(1599～1606)にかけて、家康公が京都伏見の円光寺に、当時の最高学府であった足利学校(栃木県)の庠主(校長)、閑室元佶を招いて出版させた木活字版の本を「伏見版」(もしくは円光寺版)と呼んでいます。「孔子家語」「六韜」「三略」「貞観政要」「吾妻鏡」など8部80冊を出版しました。これらは新しい時代の武士のあり方について学ぶ意図が強く、有名な遺言である「天下は一人の天下にあらず…」のくだりは「六韜」からの引用でもあります。この後、家康公が御所時代に駿府で出版した銅活字の版本を「駿河版」と呼んでいます。



円光寺(京都市)

解答… (1)

問題94

天正18年(1590)の関東移封・江戸入りにあたり、家康公から江戸城と家臣団の飲料水の確保を命じられ小石川上水を開発した三河武士で、その功績から飲み水を司る「主水」の官職名を与えられ、子孫は代々幕府御用達の菓子司となったのは誰でしょうか？

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| (1) 青山宗俊
<small>むねとし</small> | (2) 今川範以
<small>のりもち</small> |
| (3) 大久保忠行
<small>ただゆき</small> | (4) 松平康俊
<small>やすとし</small> |

解説

問題文中に「小石川上水」と書かれているのは、神田上水の初名と考えられており、天正18年(1590)に導水したというのも諸説があり定かではありません。いずれにしても、大久保忠行がその任に当たったという記録があり、家康公は献上された清水に大変喜び、忠行の労を称えて「主水」という官職名を与えたと記されています。この大久保忠行は、三河国上和田(岡崎市)の大久保一族ですが、戦で足が不自由になり、菓子を作っては家康公に献上していたと伝わります。「三河餅」とも「駿河餅」とも呼ばれたようですが、子孫は幕府御用達の菓子司として「紅白の三河餅」を献上し続けたと伝わります。

小石川上水跡
(小石川後樂園／文京区)

解答… (3)

問題95

天正18年(1590)、小田原征伐で北条氏を倒した豊臣秀吉は、源頼朝の奥州征伐(奥州合戦)の故事に倣い、鎌倉で鶴岡八幡宮に参詣すると東北に向けて進軍。頼朝が戦勝祈願をした所縁の地に入り、ここに関東・東北の諸大名を集めて東国の領地配分などの仕置を行いました。秀吉がこの「奥州仕置」を行った城はどこでしょうか？

- | | |
|-----------|----------|
| (1) 会津若松城 | (2) 宇都宮城 |
| (3) 館林城 | (4) 弘前城 |

解説

天正18年(1590)7月11日、秀吉の小田原征伐が北条氏政らの切腹により終了します。これにより戦国大名としての後北条氏は滅亡しました。秀吉はそのあと小田原から下野国に向かい、宇都宮城に入城、関東、奥羽の大名達を宇都宮へ出頭させて、ここで東国大名に対する仕置を行いました。特筆すべき内容は、伊達政宗に対する仕置で、惣無事令に従わず小田原参陣が遅れたことを咎め、100万石以上あったとされる領地を70万石余りに減俸したことです。大きな勢力を従えたことで、秀吉の全国統一が成ったと考えても良いでしょう。しかし諸大名の不満は残り、この後も戸政実の乱などが起きています。



宇都宮城跡
(栃木県宇都宮市)

解答… (2)

問題96

奈良時代に創建され、大黒天や平将門などをご祭神とする神社で、元和2年(1616)、江戸城の鬼門にあたる北東の地に遷座(移転)し、「江戸総鎮守」として江戸のまちを禍から護り、邪気を祓い浄める役割を担う神社はどこでしょうか？

- | | |
|-----------|----------|
| (1) 大國魂神社 | (2) 神田明神 |
| (3) 明治神宮 | (4) 湯島天神 |

解説

南光坊天海は天台宗の僧ですが、江戸の町づくりに陰陽道の考え方を取り入れ、江戸城を中心とした鬼門・裏鬼門を設定しました。北東の方角には鬼門の守護として寛永寺を建立、將軍家の菩提所としたのです。その裏鬼門は芝の増上寺で、同様に將軍家の菩提所としています。神田神社(神田明神)はもともと大手町付近にあったものを現在の湯島に移し鬼門守護としました。ご祭神が大黒様、恵比寿様、将門様(平将門)であり、江戸の多くの庶民から厚い信奉を得てきました。神田神社の「神田祭」、浅草寺の「三社祭」、日枝神社の「山王祭」は江戸の三大祭りとして現代に至っています。



神田神社随身門(千代田区)

解答… (2)

問題97

平和社会の構築のため公武融合を目指した家康公は、慶長17年(1612)、後水尾天皇への孫娘の入内(嫁入り)を申し入れ、8年後の元和6年(1620)に実現します。そして誕生した娘が寛永7年(1630)に第109代の天皇に即位しました。何と呼ばれる天皇でしょうか？

- (1) 後光明天皇 (2) 桜町天皇
(3) 東山天皇 (4) 明正天皇

解説

明正天皇です。奈良時代の称徳天皇以来の女帝となりました。後水尾天皇の第2皇女で、母は家康公が入内させた二代将軍 秀忠の娘、和子(東福門院)です。寛永6年(1629)11月8日、後水尾天皇の突然の譲位により翌年9月に即位しました。中宮和子には二人の皇子が生まれていましたが早世してしまいます。皇子を次の天皇として、徳川氏の血統が皇統に継承されることを望んでいた幕府には、女帝 明正天皇の即位は意外なことでした。しかし徳川家はこれにより外戚の地位を得、強力な幕府庇護による天皇の時代が始まったのです。



東福門院和子の眠る月輪陵
(湧泉寺／京都市)

問題98

家康公の生涯の中で大きな節目となったことのひとつに松平から徳川への復姓があります。家康公が朝廷から初めて官職と位階を賜り、先祖が名乗ったという新田源氏の徳川への復姓を認められ、「徳川家康」の名乗りを上げたのは、次のどの城主時代のことだったのでしょうか？

- (1) 岡崎城主 (2) 浜松城主
(3) 駿府城主 (4) 江戸城主

解説

家康公の生涯で大きな節目はいくつかありますが、岡崎城主時代に、今川氏の武將から完全に独立し、朝廷から正式な官職を得て大名として認められたことが最大の節目でしょう。この時に系図の検討と作成を近衛家を通して冷泉家が行い、松平氏の先祖である「新田世良田徳川氏」を名乗ることになりました。明治以後の研究で、実際はつながりがないとされていますが、家康公以前の祖父 清康の時に、すでに「世良田」姓を名乗っていたことや、室町中期のものと認められた松平親氏の位牌に「徳川」姓が記されていることなど、これからの研究が待たれます。



徳川家康公騎馬像
(名鉄東岡崎駅北東街区／
岡崎市上明大寺町)

問題99

家康公の江戸入り以来、江戸のまちは堀・運河の開削や上水道整備、湿地や入江の埋立など大規模なインフラ整備が進み、寒村といわれた江戸の人口は20年後の慶長14年(1609)には15万人、130年後の享保年間には100万人を越えるまでに発展しました。江戸のまちはどのようなかたちで拡大していったのでしょうか？

- (1) 五街道に沿って放射線状に城下町を拡大していった。
- (2) 平安京に倣い、江戸城の南側に碁盤の目を引くように城下町を形成していった。
- (3) 江戸城本丸を円の中心に、二重、三重と円を重ねるように城下町を拡大していった。
- (4) 江戸城本丸から堀を「の」の字を書くように延伸させ城下町を拡大していった。

解説

江戸城域については、河川の流路をうまく利用しながら「の」の字を描くように堀を延伸させ、大きく拡張させていきました。それと同時に、町屋の拡張も行われ、町人地が拡大したことも人口増加の大きな要因と考えられます。さらに諸街道の整備が進み、江戸への流入人口には宿場や盛り場などが発達しました。流入人口も増えたという事実もありますが、何よりも人口減少の三つの要因「疫病」「飢饉」「戦争」が、平和社会の到来で抑制されたという点が決定的な要因でしょう。疫病や飢饉は全く無くなったわけではありませんが、町が清潔に保たれたということも重要な要因です。



分間懷宝御江戸絵図
安政4年(1858)

問題100

家康公と家臣団が心血を注いでデザイン&プロデュースした計画都市・江戸。100万人都市に発展した享保年間からさらに300年が経過し、令和を迎えた現在の東京特別区(23区)には、およそどれだけの人々が暮らしているのでしょうか？

※10万人単位を四捨五入し100万人単位で表示

(令和2年11月1日現在)

- (1) 300万人
- (2) 500万人
- (3) 700万人
- (4) 1,000万人

解説

令和2年現在、東京23区の人口はおおよそ1000万人です。300年間で10倍に増加していることが分かります。江戸の人口について、八代将軍 吉宗の時(在位1716~1745年)に初めて本格的な調査が行われました。この時は武士や寺社(僧侶や神官たち)の人口が含まれておらず、全体としての正確な統計は出ていませんでしたが、およそ100~130万人がいたと考えられています。当時、世界最大の都市と考えられていたロンドンが80万人くらいでしたので、すでに世界一の大都市となっていた可能性があります。家康公の江戸入封時、町屋が100軒あるかないかと伝えられた江戸の人口は、100~130年の時を経て世界最大級の大都市に変貌したのです。



大都市 東京